

Hokkaido University News

北大時報

平成28年

12

No. 753 December 2016

次期総長予定者として現・工学研究院長の名和豊春氏を選出
平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
北海道大学病院が平成28年度北海道知事賞（優良給食施設）を受賞

お知らせ

・次世代シーケンサーなど先端機器類の共用を開始



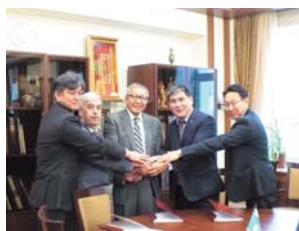
1 大学におけるコンプライアンスの推進

全学ニュース

- 2 次期総長予定者として現・工学研究院長の名和豊春氏を選出
- 2 平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
- 3 北海道大学病院が平成28年度北海道知事賞（優良給食施設）を受賞
- 4 プレトリア大学と大学間交流協定を締結
- 5 AO入試合格者の発表
- 5 帰国子女入試合格者の発表
- 6 大学入試センター試験 本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
- 8 北大フロンティア基金
- 10 情報セキュリティ対策セミナーを開催
- 10 ケニア共和国ナイロビ大学で「日本留学フェア」を開催
- 11 インドネシアとタイの北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式を開催
- 12 第1回HUCIフォーラム「大学国際化は改革の原動力」を開催
- 13 「平成28年度冬山登山講習会」を開催
- 13 平成28年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催
- 14 第31回北海道大学教育ワークショップを開催
- 14 講演会「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」を開催
- 15 女子中高生の理系進路選択プログラム「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」全3回を開催
- 16 人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手研究者向け論文指導講座を開催
- 17 北海道大学×技術ベンチャーセミナーを開催
- 17 第30回ビジネスEXPO2016に出展
- 18 高等教育推進機構等で自衛消防訓練を実施
- 18 北キャンパスで合同防災訓練を実施
- 19 平成28年度北海道地区国立学校等安全管理協議会を開催

部局ニュース

- 20 総合博物館リニューアルオープン後入館者数10万人を達成
- 21 水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターが紋別市との3者間の連携協定を締結
- 22 工学系部局がマッコーリー大学理工学部（オーストラリア）と部局間交流協定を締結
- 22 北極域研究センターがロシア2機関とジョイント・リサーチ・ラボラトリを開設
- 23 川端理事・副学長が日露共同研究25周年記念式典に出席
- 23 獣医学研究科及び人獣共通感染症リサーチセンターがJICAとボランティア派遣に関する連携協定を締結
- 24 平成28年度低温科学研究所公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了
- 25 生命科学学院が「第4回生命科学国際シンポジウム」を開催
- 26 教育学院・教育学研究院・教育学部で国際交流に係るFDを実施
- 27 教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが第3回教職高度化セミナーを開催



北極域研究センター
ロシア2機関とジョイント・リサーチ・ラボラトリ開設



低温科学研究所
平成28年度公開講座
「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」



インドネシアとタイの北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式



女子中高生の理系進路選択プログラム「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」

- 28 経済学部で札幌国税局長の特別講演会を開催
- 28 経済学部で特別講演会「フィンテックと公認会計士によるベンチャー支援」を開催
- 29 経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターで講演会「企業の社会的責任と株主・被雇用者パートナーシップ：経験的分析」を開催
- 30 「法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催
- 30 法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催
- 31 農学部でオーストラリア政府「新コロポ計画」による学生を受け入れ
- 32 農学院・農学研究科・農学部で第7回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- 33 文学研究科が北海道札幌東高等学校にて読書会を開催
- 34 北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙行
- 35 薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行
- 35 歯学研究科で「動物供養祭」を挙行
- 36 歯学研究科で自衛消防訓練を実施
- 36 情報基盤センターで防災訓練の実施
- 37 北海道大学病院で北海道・サハリン州がんシンポジウムを開催
- 38 北海道大学病院で指導医ワークショップを開催
- 39 附属図書館で第2回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催
- 39 総合博物館にバリアフリー玄関並びに木製デッキを設置
- 40 総合博物館で坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」を開催
- 41 工学部土木工学科卒業生の関係資料を大学文書館で受贈
- 41 佐藤昌介博士肖像画を大学文書館で受贈
- 42 物質科学リーディングプログラム第4回国際シンポジウムを開催

お知らせ

- 43 次世代シーケンサーなど先端機器類の共用を開始

諸会議の開催状況 43

学内規程 44

研修

- 45 平成28年度北海道地区大学等留学生担当職員研修

表敬訪問 45

人事 46

資料

- 47 平成28年度外国人留学生数（平成28年11月1日現在）
- 48 平成28年度国別外国人留学生数（平成28年11月1日現在）
- 49 北大時報掲載記事事項別一覧（平成28年掲載分）



文学研究科
北海道札幌東高等学校にて読書会開催



大学文書館
工学部土木工学科卒業生の関係資料受贈

表紙：総合博物館にバリアフリー玄関並びに木製デッキ設置（関連記事39頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景④ 雪夜に駆ける

大学におけるコンプライアンスの推進

理事・事務局長 とくひさ はるひこ
徳久 治彦



「コンプライアンス（法令遵守）」という言葉は、平成18年の公益通報者保護法の制定時から使用されています。コンプライアンスの対象としては、個人情報の扱いなど情報マネジメント、不正経理・不正受給、契約、労働関係、ハラスメント、環境対応など幅広いものが想定されます。

国立大学法人においても、第2期中期目標期間（平成22～27年度）から使われ、国立大学法人評価委員会による「共通の観点」による評価対象となっています。本学においては、平成27年に「国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程」を制定し、関係規定を運用しています。これは、第3期中期目標期間についても同様で、「法令遵守（コンプライアンス）」に関する体制及び規程等の整備・運用状況が評価確認事項例となっています。

最近では、国立大学法人法の改正にともない、大学運営の一部を説明する際に「コンプライアンス」のほかに、「ガバナンス」や「内部統制」という言葉がよく使われています。

まず、この3つは何が違うのか、どの様に関係しているかについて、できるだけ簡単に、皆様と共有したいと思います。

「ガバナンス」は、一般に「管理」や「統治」などに訳されていますが、大学においては、概ね意思決定に係る様々な組織構造や明示・黙示を含むその過程全般の意味と理解した方が良くと思います。言うなれば国立大学法人における意思決定の組織構造の一つであると理解できます。

「内部統制」は、金融庁の企業会計審議会が公表している「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」に定義の記述があります。そこには、「内部統制とは、基本的に、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守並びに資産の保全の4つの目的が達成されているとの合理的な保証を得るために、業務に組み込まれ、組織内のすべての者によって遂行されるプロセスをいい」とあり、その目的の一つとして「事業活動に関わる法令等の遵守」という言葉が入っています。

「コンプライアンス」は、単純に「既存のルールに従う」という意味だけではなく、社会的要請に応じていくという倫理的な要素も組み合わせたものと理解する必要があります。本学のコンプライアンス基本規程でも、コンプライアンスとは「法令、本学の諸規則又は教育研究及び診療に係る固有の倫理その他の規範に違反し、又は違反するおそれのある事実をいう」としています。

そうすると、ガバナンス、内部統制、コンプライアンスの関係性は、右の図のようになると考えられるでしょう。大学の「ガバナンス」は、大学の仕組みを、より大きな範囲で定義し、大学としての目的を達成するためには「内部統制」の目的が達成されている必要があって、「内部統制」の目的の一つである「コンプライアンス」は、法令や

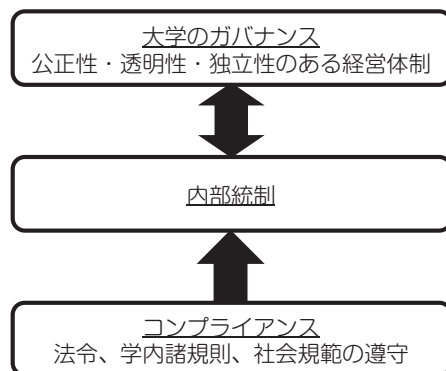
社会規範に沿った行動を役職員がとることを職務遂行における基本的事項として位置付けられているものと考えられるわけです。

民間企業などでコンプライアンス違反が発生した場合、行政からの処罰や処分を受けることはもちろん、一般の人々からすると、その会社は内部統制も効いていない、したがって企業統治がないというイメージが広がり、消費者や取引先からの信用がなくなり、株主からの信用もなくなります。当然良い人材も採用できなくなります。これは企業にとっては大きな損失です。そのため、問題を起こして罰せられるよりも、日頃からコンプライアンス対策の充実を図っていくこととなります。

本学においても役職員がコンプライアンスに取り組むということは、「本学の価値を高める取り組み」「本学の信頼性を世に広める取り組み」であると捉えるべきと考えれば良いのです。このため、コンプライアンス体制の構築と確実な運用を図っていくことが必要です。その際、リスクを徹底的に洗い出し、具体化し、それへの対策を講じていくこと、期待したシステムの機能が果たされているか定期的にチェック、モニタリングしていくことが重要なポイントです。

今後は、コンプライアンス教育として、①コンプライアンスの重要性、②コンプライアンスが大学運営にプラスになること、③役職員が一人ひとりの振る舞いを中心に、本学の職群に応じた、階層別の研修、外部専門家による講習会、eラーニングの活用などを効果的なタイミングで実施すると同時に、監事と連携して内部監査も実施していきます。

本学は、道内外において約6億6千㎡の土地を所有しているほか、船舶も所有しています。札幌キャンパスには多くの人々が訪れ、総合博物館では7月のリニューアル後、既に10万人を超える人々が訪れています。この豊かな自然のもと、学生が自由に学び、国際的な教育と最先端の研究を進めているという特徴ある大学です。この北大の風土を絶やすことはできません。不適切経理、情報セキュリティの問題を乗り越え、皆様方のお力で進めていきましょう。



■全学ニュース

次期総長予定者として現・工学研究院長の名和豊春氏を選出



名和 豊春 氏

山口佳三総長の任期満了に伴う次期総長の選考が行われ、現・工学研究院長の名和豊春氏が次期総長予定者として選出されました。

本選考は、国立大学法人北海道大学総長選考会議規程に基づく所定の手続きを経て、12月13日（火）開催の総長選考会議において、同会議委員の投票により行われたものです。

なお、任期は平成29年4月1日から平成35年3月31日までの6年となります。

（総務企画部総務課）

平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院 看護部副看護師長 浅野恵子氏、同医療技術部検査・輸血部主任臨床検査技師 秋沢宏次氏が表彰され、11月22日（火）文部科学省3階講堂において、表彰式が行われました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

（総務企画部広報課）



北海道大学病院 看護部
副看護師長

あさの けいこ
浅野 恵子 氏

11月22日（火）、東京で開催された医学教育等関係業務功労者表彰式に出席し、97名の方々と共に表彰を受けてまいりました。

私が北大病院に勤めてから約35年の月日が流れ、医学の進歩と共に看護師の役割の重要性を感じております。私は、脳神経外科・眼科外来の勤務の後、手術室勤務を希望し約12年間勤務、先輩の指導の下、手術室看護の重要性と楽しさを学びました。北大病院で初めての肝臓移植のメンバーの一人として、ピッツバーグでの肝臓移植の研修にも参加させていただき、アメリカと日本の移植医療の違いを実感しました。帰国後は北大病院での移植医療の発展を願

い、手術室内のサプライで手術器械の準備や調整を行いました。その後循環器内科病棟に異動となりましたが、10年以上病棟勤務経験のない私を当時の師長さんをはじめ同僚、スタッフ、先生たちが、とても温かく受け入れ指導してくださったことを思い出します。その後外来治療センターの新設と共に異動、勤務することになりましたが、私にとっては初めてのがん看護、不安と戸惑いの中でのスタートでした。師長さんやスタッフと共に「患者参加型看護」を実践し、患者さんが安心して治療を受けられるように様々な取り組みをした思い出がたくさんあります。医科外来ナースセンターに異動後は入退院センターの新設に伴い同センター勤務となりました。入退院センターではこれから入院される患者さんが安心して入院出来るようにスタッフ全員で努力してまいりました。よく「立ち上げの部署で大変ね」と言われますが、その役割を与えていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

今まで私を指導してくださった諸先輩、歴代の看護部長、副看護部長、看護師長、職場の同僚の皆様へ深く感謝しております。



北海道大学病院 医療技術部検査・輸血部
主任臨床検査技師

あきざわ こうじ
秋沢 宏次 氏

11月22日（火）に東京で開催された、医学教育等関係業務功労者表彰式に出席してまいりました。臨床検査関係業務はもとより、看護関係、診療放射線関係、薬剤関係、歯科関係、リハビリ関係、給食関係、環境整備関係、研究補助関係、解剖関係、実験動物管理関係と多種多様な関係業務の方々が表彰の対象となりました。北海道からは4人しか選出されていないことを知り、大変栄誉ある賞をいただいたことに戸惑いながらも感激しております。

私が北海道大学病院検査・輸血部に入職し35年の月日が経ちました。賞の意味するところは、長年教育に携わった

者に対しての功労とっております。その意味からも、検査・輸血部に毎年実習に来られる臨床検査技師の実験指導や医学部生、看護学生への講義を長く務めた功績が最大の受賞理由とっております。一方では、振り返りますと学生を教育することにより、自分も成長したと感慨深いものがあります。毎日の日常業務だけを行うのであれば、それほど知識を必要としないのかもしれませんが、学生に教える立場となれば基本的医学知識は勿論、日進月歩で発展する医療知識についても自己研鑽を積まなくてはなりません。このことが、大学病院に勤める者の責務と痛切に感じております。退職まで残り僅かですが、情熱を持って今後も教育指導を行いたいと思います。

この賞をいただくにあたり、私を厳しく指導してくださった検査・輸血部の諸先輩方、歴代の部長、技師長、職場の同僚に深く感謝いたします。また、受賞のためご尽力いただきました北海道大学病院の関係各位にも感謝いたします。最後になりましたが、本学の益々の発展を祈念して、御礼の言葉とさせていただきます。

（北海道大学病院）

北海道大学病院が平成28年度北海道知事賞（優良給食施設）を受賞

北海道大学病院が平成28年度北海道知事賞（優良給食施設）を受賞し、10月22日（土）、北海道立道民活動センターかでの2・7ホールにて表彰式が執り行われました。

この賞は、給食の管理運営と栄養の改善指導において特に優秀で他の模範となる給食施設に授与されるものです。

本院栄養管理部では、徹底した衛生

管理のもとに、1日2,100食（3食の合計）、60食種175パターンの食事の提供、患者さんそれぞれの病態に合わせた適切な栄養管理の実施、入院・外来患者さんへの栄養相談、NST（栄養サポートチーム）をはじめとするチーム医療への参画等を行っています。また、生活習慣病の改善を目的とした健康レシピ本「北海道大学病院のおいしい健康ごはん」の出版、セミナー及び

料理教室の開催など、地域の皆様の健康づくりにも役立てるよう努めています。

今回の受賞を励みに、今後もより安全安心な給食の提供や皆様の健康づくりに向けて、一層努力してまいります。

（北海道大学病院）



表彰式の様子



賞状を囲んで

プレトリア大学と大学間交流協定を締結

8月29日（月）南アフリカ共和国プレトリア市にあるプレトリア大学ハットフィールドキャンパスにおいて、本学と同大学との学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印式を行いました。本学からは山口佳三総長、ルサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究科教授、同オフィス駐在の留学コーディネーターである中村 聡特任講師、成澤徳子特任助教の4名が出席しました。

プレトリア大学は1908年に教養と自然科学の修養を目的として開校したトランスバールユニバーシティ・カレッジを前身とし、1930年に議会から正式に承認され、現在の名称の総合大学となりました。現在は9学部1ビジネススクールで構成され、学生約5万人（うち留学生約4,500人）を擁する南アフリカ有数の大学です。国内だけでなく世界的にもインパクトのある教育・研究を行っている大学として、エジプトなど北アフリカを含むアフリカ地域内の大学ランキングにおいても、常にトップ10以内を維持しています。また、1920年に開設された獣医学部は、同分野での学部としてはアフリカで2番目に古いもので、1980年代にジンバブエ大学や、本学が技術協力に携わったザンビア大学に開設されるまで

は、南部アフリカにおける唯一の専門機関として専門人材の育成や研究に貢献し、現在も重要な役割を果たしています。

同大学とは、これまでも獣医学、工学の分野において研究者レベルでの交流や共同研究が行われていましたが、2015年3月にシェリル・デ・ラ・レイ同大学副学長と本学の上田一郎理事・副学長が東京で会合を持ち、交流協定の締結に向けて両大学の関係を構築していくことを確認しました。その後、2015年9月に在南アフリカ日本国大使館の後援により開催された「プレトリア大学人文学部日本研究センター移転記念式典」の記念行事「日本留学フェア」の中の「プレトリア大学-北海道大学合同学術交流ワークショップ」において、獣医学、医学、教育、国際交流等の分野に分かれ、双方の研究活動や今後の連携可能性について具体的に話し合いが行われ、今回締結の運びとなりました。なお、同フェア及びワークショップは、本学が文部科学省より委託を受けた「留学コーディネーター配置事業」の活動の一環として、本学ルサカオフィス山口敬治特任准教授（当時）と中村特任講師の調整の下、企画・実施されたものです。

当日は、ヴァシユ・レディ人文学部

長司会のもと、セシル・ハーテル日本研究センター長、チカ・シューレ教育学部長ほか、日本・南アフリカ双方から約20名の参加者があり、厳かな雰囲気の中で式が執り行われました。まず、デ・ラ・レイ同大学副学長より、協定締結に至る経緯の説明とともに本協定の締結を契機として両大学の更なる発展に対する期待が述べられました。山口総長からは、大学院レベルでの教育・研究連携に加え、学部レベルでの学生交流も活性化させたいとして、本学の現代日本学プログラム及び短期留学プログラム（HUSTEP）を紹介しました。最後に、川口周一郎在南アフリカ日本国大使館公使参事官よりお祝いの言葉をいただきました。

今回の大学間交流協定の締結により、両大学間の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

なお、本交流協定の締結については、調印に先立つ8月28日（日）、ケニア共和国ナイロビ市で開催された第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）の最終日に紹介されました。

◆<http://www.hokkaido-university-lusakaoffice-zm.com/news-and-events/>

（国際部国際連携課）



調印後の記念写真



山口総長による挨拶

AO入試合格者の発表

平成29年度AO入試は、募集人員59名に対し、103名の出願があり、自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月20日（日）に第2次選考の課題論文と面接試験を実施し、12月6日（火）に合格者発表を行い、22名が合格しました。

なお、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表は、平成29年2月7日（火）を予定しています。

(学務部入試課)

平成29年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者	倍率	合格者	
理学部	物理学科	5	6	1.2	1	
	地球惑星科学科	5	8 (1)	1.6	5	
医学部	医学科	5	6 (2)	1.2	-	
	保健学科	看護学専攻	7	21 (14)	3.0	-
		作業療法学専攻	4	5 (4)	1.3	-
歯学部		5	15 (2)	3.0	4 (1)	
工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)	4	6 (1)	1.5	-	
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)	4	1	0.3	-	
水産学部		20	35 (4)	1.8	12	
計		59	103 (28)	1.7	22 (1)	

※ ()内の数字は、道内高校出身者で内数

帰国子女入試合格者の発表

平成29年度帰国子女入試は、10学部にて68名の出願があり、自己推薦書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月20日（日）に第2次選考の課題論文と面接試験を実施し、12月6日（火）に合格者発表を行い、15名が合格しました。

(学務部入試課)

平成29年度帰国子女入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者	合格者	
文学部		若干名	6 (2)	-	
教育学部			6 (2)	-	
法学部			6 (2)	4 (2)	
経済学部			9 (1)	2 (1)	
理学部	数学科		1	-	
	物理学科		2	1	
	化学科		1	-	
	生物科学科		生物学専修分野	1 (1)	1 (1)
			高分子機能学専修分野	1 (1)	-
地球惑星科学科			1	-	
医学部	医学科		10 (7)	-	
	保健学科		看護学専攻	1 (1)	1 (1)
			放射線技術科学専攻	-	-
			検査技術科学専攻	1 (1)	-
			理学療法学専攻 作業療法学専攻	-	-
歯学部			-	-	
薬学部			-	-	
工学部	応用理工系学科		5 (1)	2	
	情報エレクトロニクス学科		1	1	
	機械知能工学科		5	2	
	環境社会工学科	2 (1)	1 (1)		
農学部		3 (2)	-		
獣医学部		5 (3)	-		
水産学部		1	-		
計			68 (25)	15 (6)	

※ ()内の数字は、女子で内数

大学入試センター試験 本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定

11月22日（火）開催のアドミッションセンター企画運営会議・総務部門・試験場部会合同会議において、平成29年度大学入試センター試験及び本学一般入試個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお、大学入試センター試験については、藤女子大学、天使大学、東海大学札幌キャンパス、北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は、次のとおりです。

(学務部入試課)

大学入試センター試験

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

(札幌市)

試験場・会場	試験場所	担当学部等
北海道大学試験場		
農学部会場	農学部	農学部
人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※法学部・経済学部
理学部会場	理学部	理学部
工学部会場	工学部	工学部
高等教育推進機構A会場	高等教育推進機構E棟2階	※教育学部・文学部
高等教育推進機構B会場	高等教育推進機構E棟3階	※薬学部・歯学部
保健科学研究所会場	保健科学研究所	※医学部・獣医学部
高等教育推進機構N会場	高等教育推進機構N棟	実施本部・武蔵女子短大
藤女子大学試験場	藤女子大学	天使大学・藤女子大学・東海大学

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

(函館市)

試験場	試験場所	担当学部
北海道大学水産学部試験場	水産学部	水産学部

なお、監督者説明会を平成29年1月6日（金）及び1月11日（水）に学術交流会館で開催しますので、監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

本学一般入試個別学力検査等

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※文 学 部 ・ 教 育 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第5試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※獣 医 学 部 ・ 医 学 部
第6試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高等教育推進機構E棟3階	※歯 学 部 ・ 薬 学 部
第7試験場（保健科学研究所）	保 健 科 学 研 究 院	※経 済 学 部 ・ 法 学 部
第8試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記8試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）

（第5試験場は、高等教育推進機構大講堂、N1、N2の教室を含む。）

（第5試験場の2日目は医学部が担当する。）

後期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※法 学 部 ・ 経 済 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（薬 学 部）	薬 学 部	薬 学 部
第5試験場（歯 学 部）	歯 学 部	歯 学 部
第6試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第7試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※教 育 学 部 ・ 文 学 部
第8試験場（高等教育推進機構N棟）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟	獣 医 学 部
第9試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高 等 教 育 推 進 機 構 E 棟 3 階	医 学 部
第10試験場（水 産 学 部）	水 産 学 部	水 産 学 部
第11試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟 2 階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、監督者説明会を前期日程は平成29年2月14日（火）及び2月17日（金）、後期日程は3月6日（月）及び3月8日（水）に高等教育推進機構大講堂で開催しますので、前期日程又は後期日程において、監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（11月30日現在）

19,718件 3,382,851,378円

11月のご寄附状況

法人等8社、個人97名の方々から14,889,182円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団 五稜会病院、四水会、SAGE Publications Asia Pacific Pte Ltd、鉄建建設株式会社、北大医学部46期、北大全学教育基礎科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同、峰村内科クリニック

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	荒巻 久晃	五十嵐冬華	石森 直樹	井門 英明	伊藤 敦之	入澤 秀次
宇藤 洋三	浦 祐司	運上 茂樹	大家 邦久	大野 隆明	岡崎 裕子	小内 透	小野江和則
小原 大和	埴山 雅秀	金川 眞行	金澤 信	川添 公貴	河本 充司	喜多 孝昭	北村 均
熊坂由紀子	倉内 宣明	今 京子	齊藤紀美子	齊藤 久	佐々木俊夫	佐々木 悠	三升畑元基
志藤 光男	清水 智之	下斗米啓介	白尾 誠二	城田 昌良	須佐 太樹	瀬名波栄潤	高口 道宏
高橋 隆司	竹田 治土	但木 慎治	丹野千枝美	千葉 秀彦	辻 寧重	土家 琢磨	鶴田 靖
寺澤 睦	戸田 純子	豊田 威信	長瀬 俊彦	中村 睦男	畠山 義彦	平田 康二	廣井 基祥
廣重 勝彦	廣重 晃以	星野 俊一	星野 フサ	牧内 勝哉	松澤 重治	松野 吉宏	松谷 寛
馬庭 透	宮本 紀子	向井 広美	村上 明	山内 隆嗣	山城 有機	湯浅 資之	吉崎 正人
吉田 広志	渡辺 光明						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

医療法人社団 五稜会病院、四水会、SAGE Publications Asia Pacific Pte Ltd、鉄建建設株式会社、北大医学部46期

（個人）

荒巻 久晃、石森 直樹、井門 英明、宇藤 洋三、浦 祐司、岡崎 裕子、小野江和則、熊坂由紀子、竹田 治土、千葉 秀彦、辻 寧重、星野 俊一、松澤 重治、松野 吉宏、宮本 紀子、湯浅 資之、渡辺 光明

感謝状の贈呈

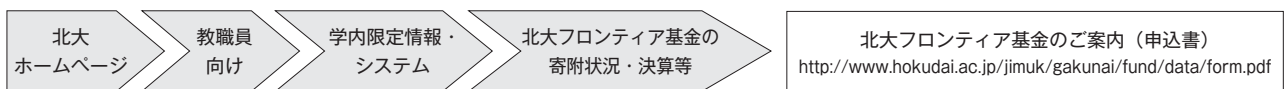


加藤 元 様 (平成28年11月29日)

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

情報セキュリティ対策セミナーを開催

11月7日（月）、学術交流会館講堂において、総務企画部情報企画課主催の「情報セキュリティ対策セミナー」を開催しました。

今回のセミナーでは、主に情報セキュリティに関する管理・監督者を対象に、株式会社ラック サイバーセキュリティ事業部理事の長谷川長一氏を講師に迎え「情報セキュリティインシデントが発生した場合の企業リスクと事前対策の必要性について等、経営者の立場におけるセキュリティ対策について」と題して、情報セキュリティの最新動向や管理者の立場における情報セキュリティ対策について実例を交えながら解説が行われました。また、長谷川氏の講演の後には、南 弘征サ

イバーセキュリティセンター長から本学の情報セキュリティに関する現状等の解説が行われました。

本セミナーには、山口佳三総長をはじめ、理事、部局長等100名以上の教職員及び学生の参加があり、個人のみならず、組織としての意識の高まりが伝わってきました。



長谷川氏による講演

総務企画部情報企画課では今後もサイバーセキュリティセンターと共に情報セキュリティに関するセミナーを開催するなどして、本学の教職員及び学生の情報セキュリティに関する意識強化に取り組んでいきます。

（総務企画部情報企画課）



聴講する総長、理事

ケニア共和国ナイロビ大学で「日本留学フェア」を開催

本学ルサカオフィスでは、10月26日（水）にケニア共和国ナイロビ大学において、「日本留学フェア」を開催しました。本留学フェアは、アフリカ・サブサハラ地域からの優秀な学生の日本留学を促進することを目的として、本学が受託している文部科学省「留学コーディネーター配置事業」の一環として実施されました。日本から文部科学省専門官のほか、岡山大学、東洋大学、長崎大学、名古屋大学、国際大学からの参加がありました。本学からは、寺尾宏明副学長、奥村正裕獣医学研究科教授、高井哲彦経済学研究科准教授、留学コーディネーターである中村 聡特任講師と成澤徳子特任助教、国際部事務職員2名など計14名が参加し、在ケニア在外公館及び本邦関連団体などの協力を得て、午前には学術交流ワークショップ、午後には留学説明会を実施しました。

学術交流ワークショップは日本学術振興会（JSPS）と共催とし、ナイロビ大学をはじめ、ケニア国内の2大学

からも参加者が集いました。まずJSPSナイロビ研究連絡センターの溝口大助所長よりJSPSの活動が紹介され、その後両国の参加大学が、理学・工学、医学、経済・経営、サステナビリティ科学、国際交流・連携実践の

5つのグループに分かれ、研究紹介や今後の大学間交流に向けた話し合いが積極的に行われました。

続いて留学説明会では、アイザック・ムベチェ ナイロビ大学副学長補及び寺尾宏明副学長による開会挨拶の後、植



学術交流ワークショップの様子



寺尾副学長の挨拶



日本留学フェア会場の様子



各大学のブースの様子

澤利次駐ケニア日本国特命全権大使から祝辞をいただきました。そして、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室の泉 茂樹専門官より日本留学の概要について、駐ケニア日本国大使館中村泰徳書記官より国費外国人留学生制度、さらに国際協力機構ケニア事務所の伊藤正芳企画調査員より、産業人材育成イニシアティブプログラム※1について説明がありました。また、日本留学経験者3名による経験談や日本国際交流基金スタッフの高橋知也ジョモケニヤツタ大学客員講師より日本語教育の紹介が行われました。最後に、各参加大学によるプレゼンテーションが行われました。本留学説明会

には、ナイロビ市内の高校生や大学生、教職員など500名以上が参加し、来場者が途切れないほど盛況な説明会となり、日本留学への関心の高さがうかがえました。本留学フェアでは、留学説明会と平行し、日本から参加した大学及び大使館や国際協力機構、さらには資料参加機関16大学・1機構※2の資料が展覧されるとともに、日本留学に関心を持っている大学生・高校生等への個別相談も実施されました。

ルサカオフィスでは今後もアフリカ・サブサハラ地域からの日本留学促進のため、留学説明会の実施、教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進を行っていく方

針です。

◆<http://www.hokkaido-university-lusakaoffice-zm.com/news-and-events/>

※1 アフリカの若者を対象とした産業人材育成プログラム

※2 独立行政法人日本学生支援機構、東京国際大学、新潟医療福祉大学、山形大学、横浜国立大学、筑波大学、立命館大学、小樽商科大学、上智大学、同志社大学（ビジネス研究科グローバル経営研究専攻）、東京外国語大学、京都大学、東京大学、琉球大学、近畿大学、埼玉大学、九州工業大学（順不同）

（国際部国際連携課）

インドネシアとタイの北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式を開催

北海道大学アンバサダー・パートナー制度の運用を開始してから現在までに、17カ国・地域において63名のアンバサダー・パートナーが誕生しました。

9月14日（水）には、札幌キャンパスの国際本部（当時）本部長室において、インドネシア在住の北海道大学アンバサダー委嘱式が行われました。アンバサダーとして委嘱されたのは、本学の協定校でもあるインドネシアのボゴール農科大学教授で、本学インドネシア同窓会の会長も務めてくださっているクリストフォラ ハニーウィジャヤ氏です。本学同窓生でもある同氏は、特にPAREプログラムを通じて本

学への貢献が著しく、この度北海道大学アンバサダーに委嘱されることとなりました。今回の委嘱については、後日、ボゴール農科大学内でも大きく報じられました。

また、11月16日（水）には、タイのバンコク市内において、タイにおける北海道大学アンバサダー及びパートナーの委嘱式が行われました。今回、カセサート大学、タマサート大学及びチュラロンコン大学関係者のほか、本学同窓生でもあるJICAタイ事務所所長が本学アンバサダーやパートナーとして委嘱されましたが、当日の式典には委嘱が決定した8名のうち6名の皆様をご臨席され、上田一郎理事・副学

長より委嘱状を受け取りました。なお、タイでは今後、本学タイ同窓会関係者のなかから更に、新たなアンバサダー・パートナーが委嘱される計画があります。

国際連携機構グローバルリレーション室では、アンバサダー及びパートナーに関する情報提供や制度利用の体制整備を進めているところで、併せて、新たな候補者の推薦等についても随時受け付けています。皆様方におかれましては引き続き、本制度へのご理解とご協力をお願いいたします。

（国際連携機構）



委嘱状を持つ寺尾宏明副学長（左）とウィジャヤアンバサダー



ボゴール農科大学での掲示



タイでの委嘱式

第1回HUCIフォーラム「大学国際化は改革の原動力」を開催

10月5日（水）に学術交流会館において、大学力強化推進本部主催「第1回HUCIフォーラム“大学国際化は改革の原動力”」を開催しました。本学の教職員106名が参加した今回のフォーラムでは、全体テーマを「A Trend of University Internationalization - A Central Motor of Change（大学国際化は改革の原動力）」と定め、世界における大学国際化に造詣の深い4人の専門家によるパネルディスカッションを中心に議論を進め、世界における大学国際化の動向と比較した本学特有の動きや共通の課題が語られました。

HUCIフォーラムは、平成26年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業にて採択された大学改革の長期構想「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ（HUCI）」が目指す「10年後の姿」の達成をより確かなものにするを目的とした学内

対話の機会であり、大学執行部と教職員、または教職員同士の間で、HUCIに係る互いの考えを理解するために話し合っって信頼関係を築くとともに最適な実践策を見出していくことを目的に、継続的なコミュニケーションの機会を提供する場として設けられたもので、今回の開催にあたっては、大学改革を実現するためのファカルティ・デベロップメント及びスタッフ・デベロップメントの一つとして、高等教育研修センターが共催し、また、総長連絡会及び部局長研修会の一部と位置付けられています。

大学力強化推進本部では、国際大学協会（International Association of Universities=IAU）による国際戦略に対する助言サービス「IAU-ISAS」を活用して、本年1月から1年間かけてHUCIの初動状況の点検を進めているところですが、今回のフォーラムは、

IAU-ISASによる本学への訪問調査が行われるのに併せて企画され、当日は、調査のために来学されたIAUの4人のアドバイザー（ケント・アンダーソン西オーストラリア大学副学長、エヴァ・エグロン-ポラック国際大学協会事務局長、マデリーン・グリーン国際大学協会シニア・フェロー/米国国際教育者協会シニア・フェロー、二宮 皓比治山大学学長）にも本フォーラムにご参加いただき、本学が国際化に取り組む意義を確認するとともに、HUCIの今後の進め方について示唆に富む議論を行っていただきました。

なお、フォーラムの様子をYouTubeチャンネルで公開していますので、当日参加できなかった教職員の皆様方はぜひご覧ください。

◆<https://www.youtube.com/watch?v=RyyRNcKcV5s>

（国際部国際企画課）



パネルディスカッションの様子

「平成28年度冬山登山講習会」を開催

11月21日（月）、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、冬山登山講習会を開催しました。本講習会は、学務部が冬山登山の事故防止のために、毎年山系の公認学生団体と実施しているもので、今回は体育会ワンダーフォーゲル部（顧問：農学研究院川村周三教授）の協力のもと、京極紘一氏（公益社団法人日本山岳会）を講師に招き、開催しました。

京極氏は、先駆者としてネパール・カンジェラルワ（6,612m）初登頂、旧ソ連・カフカズシヘリダ北壁クローアル初登攀に成功し、登山隊隊長としての責務を果たされ、日本山岳会が実施した分水嶺踏査に参加するなど様々な経験があります。

講習会では「海外登山と北海道の山1500m以上峰150座の夏冬完全踏破」と題し、アルパインクライミングや国内外、特に道内の登山の思い出など講師の体験から、冬山の魅力や危険回避について講演いただきました。

参加した75名の学生・教職員・一般市民は、貴重な体験談や、荘厳な山々

の映像を楽しみつつ、登山の心構えの一つとして、GPSや雪崩ビーコンなどの装備が発達してもまずは基本形をしっかりとマスターすることの重要性を認識し、冬山登山についての決意を新たにしていました。

（学務部学生支援課）



講演を行う京極氏



会場の様子

平成28年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催

11月8日（火）・9日（水）、百年記念会館を会場に平成28年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催しました。本研修は、高等教育推進機構高等教育研修センター、教育学研究院、総務企画部人事課及び学務部学務企画課の主催によるものです。

本年度は「大学職員のキャリア形成と意識改革」のテーマのもと、本学職員10名を含む、道内の国公立大学、高等専門学校の職員39名が参加しました。

1日目は、新田孝彦理事・副学長から開催にあたっての挨拶があった後、京都大学の山本淳司教育推進・学生支援部次長から「大学職員のキャリアデザインとモチベーション」と題した講演がありました。引き続き、学校法人酪農学園の津川裕一三愛精神に基づく健土健民戦略本部課長補佐から「酪農学園大学『SDフォーラム』の取組について」と題した報告、株式会社ベネッセホールディングスベネッセ教育総合研究所の岡田佐織高等教育研究室研究員から「大学職員に期待される役

割の拡大～学びと成長のプロセスへの関与・貢献～」と題した報告が行われ、各機関の取り組み内容について受講者は熱心に耳を傾けていました。

その後、7つのグループに分かれてワークショップを実施しました。ワークショップでは、「これまでの研修で自分はどの成長したか」「役に立った研修、印象に残っている研修はどのような研修か」「自分の経験を踏まえてどのような研修が大切だったか」について意見交換を行い、それらを踏まえて「大学職員を対象とする研修」を企画しました。

2日目は、1日目に引き続きワークショップを実施後、各グループからの

発表を行い、発表の後には活発な質疑応答が行われ、全日程終了後には、小内透教育学研究院長から修了証書が授与されました。

1日目の研修終了後に行った情報交換会には、講師の方々も参加し、当日の研修について意見が交わされる等、大いに盛り上がりしました。

事後のアンケートでは、他機関で実際に行っている取組事例の報告が大変参考になった、他大学の方と交流を深めることができよかった等の感想が寄せられました。

（学務部学務企画課）



京都大学 山本教育推進・学生支援部次長による講演



ワークショップの様子

第31回北海道大学教育ワークショップを開催



集合写真

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、着任して5年以内の新任教員を対象とした新任教員研修（北海道大学教育ワークショップ）を11月18日（金）・19日（土）の両日、北広島市の北広島クラッセホテルを会場に合宿形式で開催しました。

今年度第3回目となる本ワークショップは、「アクティブ・ラーニング型授業の設計」をテーマに開催し、本学教員15名、学外の教員1名の参加がありました。仮定の授業科目を発案

し、そのシラバス作成を通じて、教育の基礎を理解し、授業のデザイン方法、新しい教育手法等を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、弐 和順副機構長から挨拶があった後、バスで北広島へ移動し、早速4グループに分かれてシラバスを作成する研修に入りました。

このプログラムは、一つの課題について「レクチャー」「グループ討論」及び「成果の発表、全体討論」を1セットとして、3つの課題について行い、

参加者はシラバスを具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目標・計画・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。また、各セットの間には自身のシラバスの校正と講師による添削、エクセレント・ティーチャー受賞経験者の工学研究院の長谷川靖哉教授による講演が行われました。

最後に、細川敏幸副センター長から受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡され、全日程が終了しました。

事後アンケートでは「教育に漬かり続ける2日間は非常に充実しており、教育に対するモチベーション向上につながりました」「シラバス作成に関し、大変参考になりました」等の意見が見られ、大変有意義なワークショップとなりました。

（高等教育推進機構）



グループ討論の様子



成果発表の様子



講演を行う長谷川教授

講演会「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教員に対するFDの一環として、11月11日（金）に高等教育推進機構S5講義室において、講演会「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」を実施しました。

本講演会は、文章理解及び対人コミュニケーションといった認知心理学、教育心理学を中心に研究されている東北大学の呂本俊亮教授を講師にお招きし、ご自身の研究分野の観点から、学習者が集中できる授業及び理解を促す授業を行うための準備や運営の仕方について講演が行われました。

事後のアンケートからは「実践を踏まえながらの工夫の紹介もあり大変参考になりました」「驚きと発見の多い講演でした。自分自身と関連づけながら、終始興味津々と聞かせていただきました」等の意見が見られました。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

（高等教育推進機構）



講演を行う呂本氏



講演会の様子

女子中高生の理系進路選択プログラム「しっかりサイエンス！ ～大学院生のセンパイとも語ろう～」全3回を開催

人材育成本部女性研究者支援室では、科学技術振興機構「平成28年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、「Girls be Ambitious!～科学を楽しむ、理系キャリアを知る～」と題した一連の企画を実施しています。この中の講義型実験イベントとして、9～11月の間に3回の「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」を開催しました。このイベントは理系にとっても興味のある女子中高生を対象とし、理系進学した後の具体的なイメージを女子中高生に持ってもらうため、若手女性研究者による講義や実験、女子学生との座談会を行うものです。

第1回（9月22日（木・祝）開催）

は「オトナ♡の社会科学見学～魅惑の細胞ワールドへようこそ～（講師：遺伝子病制御研究所 釜崎とも子特任助教）」、第2回（10月16日（日）開催）は「廃棄物の環境安全性をはかる～理系が解決する社会の問題～（講師：工学研究科 黄仁姫助教）」、第3回（11月20日（日）開催）は「野生動物に迫る危機！みんなで考えよう、身近な野生動物問題（講師：獣医学研究科 佐鹿万里子助教）」と、どの回も講師による工夫された内容となっており、参加した女子中高生や保護者は非常に熱心の実験やディスカッションに取り組んでいました。また、各回とも講義・実験終了後には「北大理系女子コミュニティRinGS」の女子学生と

お茶やお菓子を楽しみながら座談会を行いました。座談会では高校生や保護者から、大学生活や受験、就職等についての質問が多くあり、学生との間に話が花が咲いていました。アンケート結果からは、女性研究者による講義・実験はもちろん、座談会も含めて好評だったことがうかがえました。全3回で延べ66名の女子中高生と46名の保護者、23名の女子学生TAが参加しました。

女性研究者支援室では、平成29年度も同様の取り組みを規模を拡大して実施する予定です。

（人材育成本部）



第1回実習の様子



第2回実習の様子



第3回実習の様子

人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手研究者向け論文指導講座を開催

人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPでは、若手外国人研究者（DC, PD）向けに移転可能研究力強化セミナーを開催しています。11月17日（木）にフロンティア応用科学研究棟において、英語ネイティブスピーカーによる論文指導講座「Writing for Journal Submission（学術雑誌投稿論文の書き方）」を連携型博士研究人材育成推進室（COFRE）との共催で開催しました。

本セミナーは、海外学術雑誌への論文掲載を目指す若手外国人研究者のた

めに英語による論文指導を行うもので、ノーベル賞受賞者への論文添削の実績を持つ添削指導会社から講師を招いて実施しました。科学技術特有の英語、簡潔でメリハリのある便利な表現、盗作判定ソフトによる間違った自動スクリーニングを受けないための工夫、よりアピール力のある内容にするための構成の工夫、といった論文本体の表記上のアドバイスに加え、編集者目線で魅力的なカバーレターの書き方や、査読者への対応のノウハウといっ

た実用的な内容が含まれていたため、会場を埋めた出席者からは予定時間を過ぎても質疑応答が続き、大変満足度の高いセミナーとなりました。

人材育成本部国際人材育成プログラムでは、若手外国人研究者の研究力を強化するためのセミナーやワークショップなどを随時実施しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



講義の様子



会場の様子

北海道大学×技術ベンチャーセミナーを開催

11月11日（金）、学術交流会館において、北海道大学×技術ベンチャーセミナーを開催しました。企業の経営者、大学の教員、学生など約20人が参加し、大学発ベンチャー創業のノウハウについて、熱く語り合いました。プレゼンターには、ライラックファーマ株式会社 須佐太樹社長、Beyond Next Ventures株式会社の伊藤 毅社長を迎え、自らの体験に基づくベンチャー創業や創業支援について、悩みや障害の克服も含めてお話がありました。

北大発ベンチャーを本年4月に立ち上げた須佐社長には、今まで関係したベンチャーへの誘いやチャンスに参加しなかった経験をもとに「なぜ今年4月にベンチャーを立ち上げる決断をしたのか」について説明していただきました。本学の内外で創業するかしないかについて思い悩んでいる方々にとって、決断に至る判断基準を提供していただけたと思います。

大手ベンチャーキャピタルでの成功例を元に、スピニアウトして自らファンドを集め、Beyond Next Ventures株式会社を立ち上げた伊藤社長には、大

学のシーズレベルの研究成果を迅速に事業化につなげるアクセラレーションプログラム「BRAVE」の募集に至るまでの経緯をご説明いただき、ファンド集めに着手するきっかけや、出資にはまだ時間のかかるシーズレベルへの取り組みに至る思いを語っていただきました。

会場は円卓方式の座席とし、講師と聴衆といった一方向の関係ではなく、問題を共有し、共同で解決するような雰囲気を進めることができ、ほとんどの参加者から発言がありました。大学のシーズをもとに起業を検討する際に最も問題になるのは、社長になるべき人材の発見とマッチングです。セミ

ナーでは、ベンチャーキャピタルやベンチャー起業家は、社長の人材紹介のようなことをやってくれるのかという議論も行われ、道内で社長人材を探索した経験、首都圏の人材状況、ベンチャーキャピタリストがもつ人材ネットワークなどについて、情報交換が行われました。セミナー終了後も、名刺交換や個別面談などを含め意見交換がなされました。

産学・地域協働推進機構では、今後も密度の高い創業の情報交換、意見交換を行うことができる機会を提供していきたいと思っております。ご期待ください。

（産学・地域協働推進機構）



会場の様子



プレゼンテーションの様子

第30回ビジネスEXPO2016に出展

11月10日（木）・11日（金）、アクセスサッポロ（札幌市白石区）にて「ビジネスEXPO2016」が開催され、本学も出展しました。

ビジネスEXPOは、出展企業や機関が、新製品のアイデア、新たな販路の開拓とその拡大、そして事業発展のきっかけになるような新技術・新商品等を積極的にアピールすることで、来場者がその情報を「発見」できる魅力的な場所の提供を目的としています。

本年は、「繋がる！北海道新時代～aggressiveに突き進め！」が開催テーマで、30回の記念大会として開催されました。

本学のブースでは、「北海道大学

COI『食と健康の達人』拠点」の産学連携事例紹介、「北極域研究センター」の研究紹介といった研究成果の発信や、「グローバルファシリティーセンター」、「産学連携のワンストップ窓口」などの紹介を行い、多くの方にお越しいただきました。

今回は、出展者が354社、来場者が2日間で20,417名となり、過去最大規模の開催で、地元企業や中小企業支援機関等の皆様との交流がますます深まった1日となりました。

（産学・地域協働推進機構）



本学ブース展示の様子



高等教育推進機構等で自衛消防訓練を実施

高等教育推進機構等を構成員とする共同防火管理協議会（高等教育推進機構、附属図書館北図書館、メディア・コミュニケーション研究院、放送大学北海道学習センター）では、11月1日（火）に自衛消防訓練を実施しました。

訓練は高等教育推進機構E棟1階給湯室から出火したとの想定で、札幌市北消防署の立会いのもと、約500名の学生・教職員が参加し、自衛消防隊が通報連絡、初期消火及び避難誘導等の

一連の訓練に取り組みました。また、特別修学支援室と連携し、災害時に避難が困難となることが予想される肢体不自由学生及び視覚障害学生の救護訓練を実施しました。

訓練終了後、札幌市北消防署員から「各自衛消防隊は適切に行動していたが、大きな声を出して意思疎通をはかることが大切である」などの講評がありました。

続いて、自衛消防隊本部隊長である

新田孝彦理事・副学長から「災害時には一呼吸おいて落ち着いて行動するとともに、自分の命を守りつつ、周囲の人への目配りをしてほしい」との挨拶がありました。

最後に、消防署員の指導により、消火器の操作訓練が行われ、実際の火災に備えた実践的な訓練を行うことができました。

（学務部学務企画課）



車いすによる救護訓練



新田理事・副学長からの挨拶



消火器を利用した訓練

北キャンパスで合同防災訓練を実施

北キャンパスでは11月1日（火）、創成研究機構、電子科学研究所、触媒科学研究所、次世代物質生命科学センター、人獣共通感染症リサーチセンター、北極域研究センター、産学・地域協働推進機構、シオノギ創薬イノベーションセンター合同の防災訓練を実施しました。

訓練当日は、500名を超える学生・教

職員等の参加があり、大地震を想定した自衛消防隊による通報連絡、避難誘導の各訓練に併せて、学生・教職員等による一次避難場所、避難集合場所への避難訓練等が、防災行動の能率・統制推進と防災意識の高揚を図ることを目的に行われました。

その後、自衛消防隊隊長の川上 豊 研究支援課長から訓練参加者への慰労

の辞と今回の訓練での諸問題をフィードバックし実際の災害時に生かすことの重要性について講評がありました。

なお、全訓練終了後、より一層防災への意識を高めるために、保管期限の近くなった災害時備蓄品を訓練参加者へ配付しました。

（研究推進部研究支援課）



避難訓練の様子



講評の様子

平成28年度北海道地区国立学校等安全管理協議会を開催

11月11日（金）、本学が当番校となり「平成28年度北海道地区国立学校等安全管理協議会」を開催しました。

本協議会は、本学を含む北海道地区の国立大学・高等専門学校等において、安全衛生管理を担当する者が、職務上の様々な問題について協議等を行うことにより安全衛生に関する能力を向上させ、職員の安全確保に寄与することを目的として、毎年道内国立大学の持ち回りで開催しています。

協議会では、はじめに上田一郎安全衛生本部長による挨拶の後、各機関の

安全衛生業務の実状等について意見交換し、活発な議論が行われました。

午後からは、川上貴教安全衛生本部教授から「安全衛生に関する最近のトピックス」、柳川行雄元厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質分析官から、「安全配慮義務と安衛法改正」、山本 仁大阪大学安全衛生管理部副部長・教授から「事故事例から考える大学の安全衛生管理－誰のための管理？－」についての講演があり、それぞれ活発な質疑応答が行われました。

本協議会は、これまで事務職員のみ

の参加により開催されてきましたが、安全衛生業務は、教員や技術職員も深く関わっていることから、今回は参加対象を広げて各機関に案内しました。また、これまでは講演が主体の構成でしたが、意見交換の機会を設けるなど、プログラムの見直しも行いました。今後本協議会が日々の安全衛生業務に一層役立つことが期待されます。

（安全衛生本部）



講演をする柳川元厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質分析官



講演をする山本大阪大学安全衛生管理部副部長・教授

■ 部局ニュース

総合博物館リニューアルオープン後入館者数10万人を達成

総合博物館は、学内全12学部の教育・研究を紹介する展示や標本に触れる体験型展示などを新設、さらに講演室やカフェを備えた多目的スペース「知の交差点」エリアを整備して、7月26日（火）にリニューアルオープンしました。

近年、当館の年間入館者数は約10万人にのぼり、開館15周年となる2014年7月には、累計入館者数100万人を達成しています。これは、全国の大学博物館の中でも、トップクラスの数値です。7月のリニューアルオープン以降、大変多くの皆様にご来館いただき、リニューアル後わずか3ヶ月半程

の11月16日（水）に入館者数が早くも10万人を達成し、記念セレモニーを行いました。

10万人目の入館者となったのは、経済学部3年の進藤 匠さんです。館内カフェでの昼食を兼ねて友人の同学部3年の山口峻正さんと来館しました。中川光弘館長より、リニューアルオープン後入館者10万人目証明書と、総合博物館のある1929年竣工の理学部本館建物から耐震改修工事で剥がされた歴史ある外壁タイルを使用した記念品、ミュージアムグッズを贈呈しました。進藤さんは「学部紹介展示は、高校生の頃に見学していたら進路選択にとて

も役立てられたと思います。今、実際に学んでいる経済学部の展示からも、新たな発見ができました」「体験型の展示が興味深いので、もっと増えて欲しいと思います」と感想を話しました。

総合博物館では、リニューアルした常設展示の他にも、様々なテーマの企画展示や各種セミナーを開催しています。市民や観光客の皆様にも繰り返し博物館を訪れていただけるよう、本学の魅力を発信していきたいと考えています。

（総合博物館）



中川館長と経済学部の進藤さん（中央）、山口さん（右）



報道機関からの取材

水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターが 紋別市との3者間の連携協定を締結

水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターは、紋別市との連携のもと、学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展充実を目的として、11月14日（月）に連携協定を締結しました。

当日は、紋別市海洋交流館で協定の調印式が行われ、水産科学研究院の安井 肇研究院長、北方生物圏フィールド科学センターの本村泰三センター長、紋別市長の宮川良一氏の3者が協定書に署名しました。また、本協定の締結に伴い、本研究院では紋別市海洋交流館内に、紋別市から共同で使用する研究室「オホーツク海洋研究室」の借用を受け、同日、玄関前に看板を設置しました。

今回の協定締結により、本研究院で

は、今後も同市のオホーツクタワーで収集される海洋環境・プランクトンのデータ解析により同海域の低次生態系解明を目指すとともに、LED光を利用した効率的集魚手法、パッシブアコースティックモニタリング（PAM）による対象生物の生態や生息密度の推定・種判別手法の開発、さらに、チョウザメの海水飼育手法の確立を目的とした実験を計画しており、海洋を基軸とした価値創生を通して地域振興に寄与するとともに、紋別地域で展開されている海洋環境学、海洋生物学を基盤とする科学教育の推進に貢献することを目指しています。

一方、北方生物圏フィールド科学センターでは、変動する海洋環境への海洋生物の応答について明らかにするた

め、高次捕食者であるアザラシなどの海棲哺乳類の行動・生態に関する共同研究を進めるとともに、地元へのアウトリーチ活動を行うことにより、地域の振興に貢献していきます。また、本研究院の足立伸次教授が推進するチョウザメ養殖の種苗は同センターの七飯淡水実験所で生産されたものであり、既に飼育に取り組んでいる自治体や紋別市での飼育が本格化し、同実験所がチョウザメ種苗生産をさらに進めていくなかで、水産科学研究院と北方生物圏フィールド科学センターが、今後益々教育・研究及び地域貢献を推進していくことが期待されます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



（左から）本村センター長、宮川紋別市長、安井研究院長



看板設置の様子（左から、宮川紋別市長、安井研究院長）

工学系部局がマッコーリー大学理工学部（オーストラリア）と部局間交流協定を締結

工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科及び総合化学院は合同で、11月16日（水）にマッコーリー大学理工学部（オーストラリア）との部局間交流協定を締結しました。

フロンティア応用科学研究棟セミナー室で行われた調印式には、マッコーリー大学からバーバラ・メッサール理工学部長ほか2名が出席され、本学からは、名和豊春工学研究院長、宮永喜一情報科学研究科長及び大熊毅総合化学院長ほか7名が出席しました。

また、来賓として、在札幌オーストラリア領事館のイアン・ブレイジア領事及び小林 努商務官が出席しました。

マッコーリー大学は、1964年に設立された公立の総合大学であり、理工学部の他、芸術学、経済学、人文科学、医学、健康科学等の学部を有してお

り、学生約40,000名、教職員約3,200名が在籍しています。また、コチュテル、ダブルディグリー等の共同教育プログラムでオーストラリア国外の大学と多くの交流実績を有するとともに、2016年のTimes Higher Education「最も国際的な大学・世界ランキング」においては46位と、現在国際的に注目を浴びている大学の一つであり、特に理

工学部は、現在までに広く世界で普及している無線LAN技術の基礎を開発したことで知られています。

本協定の締結により、工学分野における交流が、より一層活発になることが期待されます。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、総合化学院）



（左から）宮永情報科学研究科長、名和工学研究院長、メッサール理工学部長、大熊総合化学院長



調印式後の記念写真（ブレイジア領事：下段左側、小林商務官：上段左から3人目）

北極域研究センターがロシア2機関とジョイント・リサーチ・ラボラトリを開設

10月31日（月）に、ロシア連邦サハ共和国ヤクーツクの北東連邦大学において、本学北極域研究センター、北東連邦大学、ロシア科学アカデミー北方圏生物問題研究所の3機関がジョイント・リサーチ・ラボラトリ（以下、ラボ）の設置に係る協定を締結しました。締結式には本学から川端和重理事・副学長と齊藤誠一北極域研究セン

ター長が出席し、齊藤センター長が協定書に署名しました。

新設されたラボでの研究は、双方の研究機関や人類にとって重要なものであり、北極に係る国際的な課題の研究を継続して推進していくことが確認され、日本とロシアの研究者が、教育・野外実習プログラムや、自然環境に関わる学術活動（水文学、気象学、水文

気象学、氷河学、生態学、生物学、森林科学、生化学、工学等）を共同で計画しており、日露の学生や研究者による共同研究、及び教育や社会との協働等の活動の推進が期待されます。

（北極域研究センター）



協定書への調印の様子



調印後、3機関の代表らによる記念撮影

川端理事・副学長が日露共同研究25周年記念式典に出席

11月1日（火）に、ロシア連邦サハ共和国ヤクーツクにおいて、日露共同研究25周年記念式典が開催され、本学から川端和重理事・副学長、齊藤誠一北極域研究センター長、田畑伸一郎スラブ・ユーラシア研究センター長、杉本敦子教授が出席しました。

東シベリアにおける日露共同研究は、本学等の日本の研究者が平成3年頃から現地に入り本格的に開始され、昨今の北極域に注力した日露の共同研究は益々の発展が期待されています。

式典は、1日（火）から4日（金）にかけて開催された、東シベリアの永久凍土帯のタイガと極域における炭素・水・熱収支と気候に関する研究成果を発表するシンポジウムの開会式の中で行われ、在ハバロフスク日本総領事のメッセージの後、在ヤクーツクロ

シア連邦外務省、サハ共和国外務省等からの来賓挨拶に引き続き、ロシア科学アカデミーの研究所、北東連邦大学や日本からの参加者が挨拶を述べました。

川端理事・副学長からは北極域研究に対する意気込みが語られ、齊藤センター長が北極域研究共同推進拠点の活

動や、北極域研究推進プロジェクト（ArCS）、戦略的国際科学技術協力推進事業（ベルモント・フォーラム）等の国際プロジェクトについての紹介を行いました。

（北極域研究センター）



記念式典で挨拶を述べる川端理事・副学長

獣医学研究科及び人獣共通感染症リサーチセンターがJICAとボランティア派遣に関する連携協定を締結

獣医学研究科及び人獣共通感染症リサーチセンターは、11月22日（火）に独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）との間で大学連携ボランティア事業に関する覚書を締結しました。本連携により、獣医学研究科及び人獣共通感染症リサーチセンターに所属する大学院生等を、本年から平成33年にかけて青年海外協力隊員として東アジアのモンゴルに派遣し、同国において獣医・畜産分野の指導と普及を担う人

材の能力強化に携わります。具体的には、「モンゴル国 獣医・畜産分野調査研究能力強化支援」として、モンゴル生命科学大学獣医学部において、現地のカウンターパートと共同で家畜感染症や家畜繁殖実態に関わる調査研究を実施し、獣医学教育の改善や社会人教育に必要なデータを収集します。また、調査研究に必要な技術を提供します。期間中には、1～2年の長期派遣を2名程度、1ヶ月単位の

短期派遣を10名程度予定しています。この活動を通じて、モンゴルの獣医・畜産分野の人材育成が進むとともに、派遣する学生が今後グローバル人材として日本社会や世界で活躍することも目指しています。

（獣医学研究科・獣医学部、人獣共通感染症リサーチセンター）



（左から）稲葉 睦獣医学研究科長、松島正明国際協力機構北海道所長、鈴木定彦人獣共通感染症リサーチセンター長



平成28年度低温科学研究所公開講座 「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了

低温科学研究所では、9月26日から11月7日までの毎週月曜日、全6回にわたって、公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」を実施しました。

本講座は、「低温」をキーワードに、植物、動物、海、氷、宇宙まで、

広大な低温科学の魅力について各講師が語りました。

実施にあたっては20代から70代までの67名の幅広い層の方々にご参加いただき、また、各回とも受講者の方々からは多くの熱心な質問が寄せられ、盛況のうちに終了しました。来年度以降

も多くの皆様に楽しんでいただけるよう、より充実した公開講座を目指していきたいと思えます。

(低温科学研究所)

講師と講座タイトル

第1回：9月26日

講師：杉山 慎 准教授 「氷河氷床－地球の氷に何が起きているのか？－」

第2回：10月3日

講師：田中 歩 教授 「クロロフィルと生物の進化」

第3回：10月17日

講師：青木 茂 准教授 「凍る海・巡る海」

第4回：10月24日

講師：羽馬 哲也 助教 「宇宙でおきている化学：-263℃のガス天体から太陽系まで」

第5回：10月31日

講師：大館 智志 助教 「極北から熱帯まで“モグラ”の仲間を追って」

第6回：11月7日

講師：関 宰 准教授 「氷床コアが語る地球の気候変動」



講義風景（第1回）



講義風景（第4回）

生命科学学院が「第4回生命科学国際シンポジウム」を開催



集合写真

11月18日（金）、学术交流会館で“The 4th International Life-Science Symposium（第4回生命科学国際シンポジウム）”を開催しました。本シンポジウムは、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムとして生命科学学院が実施する「次世代の生命科学グローバルリーダー養成プログラム International Graduate Program, Training Program for Global Leaders in Life Science (IGP-GLLS)」が主催する国際シンポジウムで、生命科学学院の学生を中心に企画・運営を行いました。

本年度も、今後の日本の生命科学の研究を担う次世代の若手研究者の異文化交流の足掛かりとして位置づけ、若手研究者同士のコミュニケーションの場を提供するという目標のもと、留学

生47名を含む115名が参加し、12件の口頭発表及び32件のポスター発表を通して、活発な質疑応答が行われました。

招待講演では、先端生命科学研究院のDaniel R. King 助教を招き、先生のこれまでの研究内容に加えて、国際コミュニケーションの秘訣や海外の大学と日本の大学の違いについて講演があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

シンポジウム終了後は、本年10月入学のIGP-GLLS留学生の歓迎会と3件の優秀口頭発表賞の授賞式を兼ねた懇親会を中央食堂2階で行いました。参加者は国境を越えて、親睦を深め合い、お互いの研究について語り合いました。

本シンポジウムは、留学生をはじめ



ポスター発表の様子



King助教による講演

日本人学生にとっても、若手研究者が将来的に国際的な場で活躍するための一助となり、将来のますますの発展を手助けするものになったと思います。

開催にあたりご指導・ご協力をいただいた先生方、ご支援をいただいた事務担当者の方々、準備・運営にご協力いただいた留学生・学生に深くお礼申し上げます。

（生命科学学院・先端生命科学研究院）

教育学院・教育学研究院・教育学部で国際交流に係るFDを実施

11月11日（金）、本部局構成員を対象とした国際交流に係るFD「部局国際交流の成果と展望～クリエイティブなパースペクティブ、その意義・戦略的アプローチ」を教育学部会議室で開催し、教職員43名が参加しました。

本部局ではこれまで学部生を対象とした短期留学を支援するESDキャンパスアジア（本年度よりキャンパスアジア・パシフィック）プログラムを実施してきましたが、本年度より、大学院生を対象としたHokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）も同時に実施し、一層の教育環境の国際化を進めています。

今回のFDでは、これらの取り組みにおいて部局内で中心的役割を果たしてきた国際交流委員会の発案により、

これまでの国際交流事業を振り返るとともに、今後、部局内構成員が一丸となって取り組むための実施体制の構築に向けて議論することとしました。

水野眞佐夫国際交流委員長による進行のもと、小内透教育学研究院長の挨拶にはじまり、池田恵子国際交流委員会委員によるFD趣旨説明及びHSI実施報告、伊藤崇同委員によるESD実施報告が行われました。この報告を通じて、部局の研究・教育の高度化を推進する上で、国際的な共通課題に向けて、専門的な知識の有機的な連携、学際的交流を促進するエディター機能の充実、多様な専門性の総体からなる本部局の特徴を活かしたワークステーション機能の活用が強調されました。加えて、本年度の取り組みを振り返っ

て、成果と課題の分析が行われました。

こうした一連の報告を受けて、部局構成員の間で様々な観点から意見が交わされました。特にESDを実施する際の学部カリキュラム編成に関わる問題、海外の大学に学生を派遣する上で安定した財源を確保する必要性などが指摘されました。

全学的な国際教育体制の構築が喫緊の課題であることは言うまでもありません。その際に、部局内の人材・研究上の蓄積を最大限活用しつつ、将来の共同研究や協同教育プログラム開発に向けた試みを確実にしていくことがこのFDを通して確認されました。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



説明に聞き入る参加者



小内研究院長からの挨拶
（左：池田教授、右：伊藤准教授）



水野国際交流委員会委員長から今後の展望等の説明

教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが 第3回教職高度化セミナーを開催

11月27日（日）、教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが、第3回教職高度化フォーラム「社会的インクルージョンにむかう高校教育の変革」を開催しました。

インクルーシブ教育の流れの中、高等学校においても発達障害をはじめとする教育上特別な支援を必要とする生徒への対応が求められています。本学の教職課程では毎年、全学で150人前後が中学校・高等学校の教員免許を取得していますが、特別支援教育に関連する講義は教職課程には位置づけられていないことから、特別支援教育や発達障害について大学でほとんど学ぶことのないまま教職につく学生もいると考えられます。教育上特別な支援を必要とする生徒へ対応できる力を養成することは、今後の教職課程の課題の一つといえます。そこで、今回の教職高度化フォーラムでは、高等学校における特別支援教育をテーマにシンポジウムを行いました。

まず、教育学研究院の研究チームから北海道内の高等学校を対象に行った「特別支援教育に関する実態調査・意識調査」に基づいて、教育上特別な支援を必要とする生徒が87%の高校に在籍していること、特に、定時制高校や生徒数120人以下の小規模校において在籍率が高いことが報告されました。次いで、上士幌高等学校の特別支援教育コーディネーターである高橋江恵教諭から文部科学省のモデル事業による高等学校における特別支援教育の実践報告、文部科学省特別支援教育課の田中裕一調査官からは「高等学校における特別支援教育の方向性」について報告が行われました。

以上の報告を踏まえ「高校生の出立をみんなで支えるために」というテーマで、特別な支援を必要としている生徒を支えるための高校教育の方向性や大学が果たす役割について、ディスカッションを行いました。教員養成に関わる学内の教員に加えて、高校のみ

ならず、小学校、中学校や特別支援学校の教員、教育委員会等の行政関係者、高校生の支援に関わるNPO関係者など、幅広い層からの参加があり、活発な議論が行われました。議論の中では、北海道の地域特性を踏まえた体制作り、教育・福祉・医療・労働・地域の連携、各分野での人材育成等が課題として挙げられました。

今回のシンポジウムを通して、高等学校での特別支援教育の重要性と課題について意識を共有することができ、大学における人材育成の課題も明らかにすることができました。今後は特別支援教育や教職課程に関わる教員に加えて、福祉・医療・労働といった各分野の研究者が連携し、北海道、さらには全国の教育施策につながる研究を推進していくことが必要といえます。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



河原範毅北海道教育庁学校教育局高校教育課長による来賓挨拶



（左から）田中 文部科学省調査官、高橋 上士幌高等学校教諭、関あゆみ教育学研究院准教授、司会の安達 潤教育学研究院教授



ディスカッションの様子

経済学部で札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部では、札幌国税局長の山崎浩二氏による特別講演会を11月2日（水）に学術交流会館講堂において開催しました。「税務行政の現状と国税庁の取組」と題し、査察調査や納税環境の整備などの問題とともに、国際化という環境変化に対しどのように対応しているかという税務行政の現状について講演していただきました。

山崎氏は、国税庁に勤務し、名古屋と大阪の国税局の査察部長、国税庁の個人課税課長を務められました。講演では、まず、査察調査の現状についてビデオが放映され理解を深めることができました。次に、税務行政が国際的な取引にどのように対応しているかという問題について説明がありました。特に、国際的な取引への対応の問題については、経済のグローバル化が進展する中で、多国籍企業が国際的な税制の隙間や抜け穴を利用して租税を回避している状況が説明され、これに対して世界各国で国際的な協体制が作られつつあるとのことでした。税務当局が課税を逃れようとする国際的租税回避に対し、租税条約等に基づいて情報交換していく方向にあることが述べられました。また、移転価格税制を取り上げ、日本にある親会社が法人税率の低い国にある子会社に利益を移し、日

本の法人税の負担を回避する問題を説明されました。

さらに、確実な税金の納付と納税環境の整備の問題などについて述べられました。確実な税金の納付のため、滞納の未然防止と整理促進に努めており、悪質な納税者には厳正な対応を行っているとのこと、また、納税環境については、マイナンバー制度やe-Taxの利用などによって整備されてきている現状が述べられました。

講演会には212名が参加し、経済学部の学生と大学院生ばかりでなく、他学部生や他大学の学生、一般の方の参加もありました。アンケートでは、参加者の多くから山崎氏の講演が非常に有益であった旨の回答がありました。

持続可能な社会を構築するためには税制の在り方を真剣に考えなければなりません。我が国では国と地方の累積債務の合計は一千兆円を超える一方、

社会保障費が著しく増大しており、どのような税でこのような社会を支えていくかが問われています。税務行政においても、国際化を含めて新しい時代に対応した新しいルール構築が絶えず求められています。このような状況の中で、申告納税が原則である我が国において、納税環境を整備し税に対する国民の信頼を維持していくことが肝要であり、納税者が自発的に納税義務を履行する意識を高めていくような制度設計が必要になっています。国民が税に関心を持ち、税の理解を通して社会に参加し、納税を通して真剣に社会を支えていこうとする意識を持つことが重要です。本講演会が、学生に現実の問題に関心を抱かせ、真剣に社会の在り方を考えてもらう良い機会になることを期待します。

（経済学研究科・経済学部）



講演する札幌国税局長の山崎氏



熱心に講演を聞く学生たち

経済学部で特別講演会「フィンテックと公認会計士によるベンチャー支援」を開催

経済学部では、11月28日（月）に、「フィンテックと公認会計士によるベンチャー支援」と題する特別講演会を開催しました。講師は、いずれも経済学部の卒業生である宮原 崇氏（株式会社マネーフォワード執行役員）と服部峻介氏（Seven Rich会計事務所代表取締役社長）で、宮原氏は「Fintechベンチャーによる金融とイノベーションについて考えていること」と題して、服部氏は「ベンチャー会計事務所

の視点から大学生のうちに知っておいたらいいこと」と題して、自らの経験

を踏まえて、これから社会人となる後輩たちに、学生時代しておくべきこ



宮原氏



服部氏

とや仕事に臨む心構えなどについてお話しされました。

ベンチャー企業の将来性や専門資格取得の意義など、学生にとって役立つお話でしたが、お2人ともWebやセミナー、インターンシップの活用、そして読書の重要性を強調されていたのが印象的でした。

月曜日の早朝の開催にも関わらず、経済学部だけでなく、他学部生を含めて30名を超える参加者があり、ビジネスの世界で成功を取っている先輩の助言に真剣に耳を傾けていました。

(経済学研究科・経済学部)



熱心に講演を聴く参加者

経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターで講演会 「企業の社会的責任と株主-被雇用者パートナーシップ：経験的分析」を開催



セミナー終了後の集合写真

経済学研究科では11月25日（金）に、中国・北京大学客員教授／韓国・ソウル大学校名誉教授である韓相震氏を招いて、講演会「企業の社会的責任と株主-被雇用者パートナーシップ：経験的分析」を経済学研究棟3階会議室で開催しました。本講演会は、経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）の主催で実施し、30名以上の出席者がありました。

講演者の韓氏は、北京大学及びソウル大学校において、これまで社会学理論を専門とし、世界的に活躍してきました。また、韓国社会においては1980年以降の市民運動の中核的理論家として有名になり、様々な理論的・実践的成果を示してきました。「中民理論」と呼ばれるその理論は、新たに台頭する中産階級の意識を構成主義的な観点から理論化したものであり、また韓国における民主化運動の一つの理念を提起するものです。2000年代には金大中政権においてブレインとして活躍し、本年初めには新たに第3の党たる「国

民の党」を創設するための準備委員長を務めています。こうした経験の背景には、彼自身の市民的コミュータリアニズムに対する確固たる信念があり、その観点から経済活動の領域においても、新しい経済倫理の可能性を探っています。本講演では、株主と被雇用者のパートナーシップ（あるいはシェア、連帯）の意識が、今日の資本主義において、わずかであるとはいえ道徳的な進化の兆候として解釈できることを、様々なデータを使って実証的に示しました。

質疑応答では、経済学研究科博士課程に在籍している金仁子氏が通訳を担



韓氏

当し、参加した学部生や中国からの留学生たちは積極的に質問しました。企業の規模、被雇用者の具体像（正規雇用／非正規雇用）、地域社会との連携、ボーナスとしての株の配当との比較、日本の企業経営への含意、個別事例の一般化可能性などに関する問題が提起され、これらの質問への応答によって議論を深めることができました。質疑応答に1時間弱という時間を設けたことも含めて、本講演会は日本と韓国との相互理解と協調のための有意義な機会となりました。

(経済学研究科・経済学部)



活発な質疑応答の様子

「法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催

11月7日（月）に、東京都千代田区の学士会館において、「第15回法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催しました。

本会議は、法曹界、産業界、教育界等各界において現在中核を成して活躍されている法学部卒業生の方で構成されており、毎年、法科大学院のみならず、法学研究科全体及び法学部に対して助言をいただいています。

第15回となる今回は、11名の同会議

メンバーと、法学研究科から山本哲生法科大学院長及び尾崎一郎高等法政教育研究センター長が出席しました。

会議では、山本法科大学院長及び尾崎センター長から本学の近況が報告された後、法科大学院の今後の在り方等について熱の入った活発でかつ貴重な意見交換及び提言がなされ、盛会のうちに終了しました。

（法学研究科・法学部）



会議の様子

法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催



集合写真

11月17日（木）、外国人留学生とサポーター・チューター学生や交換留学経験者、関係教職員を対象とした、法学研究科主催による法学研究科・法学部・公共政策大学院合同の「留学生パーティー」を開催しました。

全学的にも外国人留学生の入学者は年々増加していますが、現在、法学研究科・法学部及び公共政策大学院には

98名の外国人留学生が在籍しています。本パーティーは、今年度新たに入学した留学生に早く大学生活に慣れてもらうこと、苦勞を抱えながら勉学に励んでいる在学生の状況を知ってもらうこと、及び学生間の交流を広げってもらうことを目的として開催しました。

当日は、外国人留学生、日本人学生及び関係教職員ら52名が出席し、留学



懇談の様子

生と留学経験のある日本人学生が司会を務めました。パーティーは主催者を代表して長谷川晃法学研究科長の挨拶で始まりました。参加者は自己紹介やビンゴゲームなどを通じて大いに盛り上がり、互いに親交を深めました。

（法学研究科・法学部）

農学部でオーストラリア政府「新コロポ計画」による学生を受け入れ



修了式後の集合写真

8月24日（水）～11月2日（水）の日程で、オーストラリア政府の海外留学奨学金制度である新コロポ計画の下、シドニー大学の学生7名が農学部特別聴講学生として来学しました。7名は農学部において農業土木、土壌、畜産、育種、農業経済に関する授業を受講したほか、農学部と連携協定を結ぶ栗山町、平取町においてそれぞれ4週間にわたる農業実習を経験、トマトや稲の収穫作業のほか、小学校訪問や地域のお祭りに参加、書道や茶道など、日本文化に触れる機会もありました。

11月1日（火）には農学部において修了式が開催され、両町の受け入れ先

である11の農家の方々ほか、一般財団法人栗山町農業振興公社、平取町の方々をお招きして感謝状贈呈式を行いました。シドニー大学の学生は、農家へのホームステイも経験しており、地域の皆様と密に交流してきたことがうかがえる多くのエピソードが披露されました。当初は言葉の壁もあり、不安を感じていた受け入れ農家の方々からは、長いと思われた受け入れ期間があっという間に終わってしまうほど楽しい時間を過ごすことができたこと、学生達からは、多くのことを教えてもらった感謝の言葉が聞かれ、時折涙ぐむ姿も見られ、別れを惜しみました。

また修了式には、シドニー大学からブライアン・ジョーンズ先生が来学され、学生達の約2ヶ月にわたる実習の成果を共有することができました。本プログラムが初の試みであったことから、当初不安もあったとのことでしたが、日々学生達から送られてくる日報をみる中で、プログラムの成功を確信したとのことで、栗山町、平取町、並びに農学部への感謝の気持ちが表明されました。

（農学院・農学研究院・農学部）



栗山町での実習



平取町での実習



感謝状贈呈式の様子

農学院・農学研究院・農学部で 第7回Sapporo Alumni Lecturesを開催

農学院・農学研究院・農学部は11月25日（金）に農学部大講堂で、札幌農学同窓会とともに、学生を対象とした第7回Sapporo Alumni Lecturesを開催しました。本講演会は、社会で活躍している農学部卒業生を招いて学生に講話していただくもので、農学部を卒業して今日までの様々な経験やそこから得た人生観を語ってもらい、学生の今後の学びや将来の目標を考える機会にしてもらうことを目的としています。本年は、タカラバイオ株式会社より松下秀之氏、広島工業大学より越智幸三氏をお招きして開催しました。

横田 篤研究院長による挨拶の後、松下氏より「わが研究の軌跡と応用菌学100周年」と題して講演いただきました。農学部での卒業研究に始まり、企業において国内外の大学との共同研究も含めて実施してきた生化学・細胞

医療につながる数多くの研究や、工場竣工にまで至るキノコ人工栽培の事業化等、企業研究員としての幅の広い経験に基づいた講演でした。加えて、卒業後の同窓会の重要性について、更に昨今の基礎研究やイノベーションに対する気運・危機感について考える機会となる話題も提供いただきました。

続いて越智氏より「研究はなぜ楽しいのか；趣味の研究、道楽の研究」と題してご講演いただきました。博士取得後、米国の国立衛生研究所、民間企業、農林水産省食品総合研究所、そして大学と研究の環境を変えながら「生物のストレス応答とその利用」について研究を続け、何本もの大型研究プロジェクトを掌握して「眠った遺伝子を起こすりボゾーム工学」を提唱・発展させてきた話を、多くのエピソードを交えながら講演いただきました。学術

的にも大変興味深い研究を推進されてきた著名な研究者であり、かつ大型プロジェクトを多数実施されてきた実績もあり、参加した教員にも刺激になる講演でした。

先輩方の講演を聞こうと150名の学生が参加しました。学生から質問も多数あり、講師は丁寧に回答されて、理解が深まりました。最後に柳村俊介副研究院長による挨拶で閉会しました。

今回の講演内容は、企業の研究職を希望する学生にとっては自己の将来像として参考になるものであり、また、日々実験・研究に取り組む学生にとっては研究に対する意識や姿勢を改めて考え直す良い機会となりました。ご講演いただきました松下氏、越智氏には、ここに改めて感謝申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部）



松下氏



越智氏



会場の様子

文学研究科が北海道札幌東高等学校にて読書会を開催

11月16日（水）、北海道札幌東高等学校図書館において、文学研究科の佐々木亨教授が「『文化を展示する』とは何か」と題して読書会を開催しました。この読書会は、本研究科の広報委員会が本研究科の教育研究の一部を紹介する目的で、札幌東高校関係者のご協力のもと企画しました。

今回の読書会で取り上げた本は、文学研究科ライブラリの『空間に遊ぶー人文科学の空間論』です。平成27年度に開催した文学研究科・文学部公開講座の内容を1冊にまとめたもので、佐々木教授はこの中で「『文化を展示する』とは何か」をテーマに執筆しています。読書会は3部構成で進行し、佐々木教授の専門である博物館学について、講義やワークショップを通して学び考え、発表する機会をもちました。

第1部は講義で、東京・六本木の21_21 DESIGN SIGHTで開催された「土木展」と、今夏リニューアルオープンした北海道大学総合博物館内の「文学部展示」の例を挙げながら、展示する側が伝えたいメッセージとそれを表現する展示資料や演出について解説がありました。

第2部は講義を聞いた上で、実際に生徒が展示のシナリオを作ってみるといふ、ワークショップ形式のグループワークを行いました。今回取り上げた展示のテーマは「スマホ」です。身近な題材でありながら、展示で伝えたいメッセージには、様々な切り口が考えられます。佐々木教授と本研究科大学院生の相良真緒さんがサポートに入り、生徒の質問に答えたり、アイデアをまとめていく際の助言をしたりしました。

第3部は、グループごとにまとめた意見を発表しました。視点の異なる様々な発表があり、それぞれについて、佐々木教授がコメントしました。

いつもの授業とはひと味違ったグループワークの楽しさ、制限時間内にまとめる難しさ、同じテーマであっても、できあがった発表がグループによって異なるおもしろさ、博物館学という学問への興味など、生徒たちから様々な感想をいただきました。

読書会終了後は、広報委員長の藤田健教授による進学相談会を開催し、文学部で学べる研究分野、卒業後の進路など全体説明の後、個別相談にも応じました。

(文学研究科・文学部)



「文化を展示する」とは何かについて講義する佐々木教授



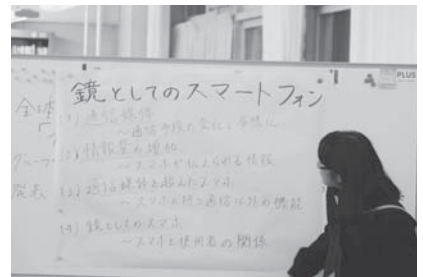
問いかけにより生徒の議論を引き出す佐々木教授



生徒の質問に答え、助言する相良さん



グループの意見を模造紙にまとめる



グループの意見を発表

北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙行

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、10月28日（金）にアグリフードセンター傍に位置する畜魂碑前において、教育・研究に供された家畜の供養のために畜魂祭を執り行いました。穏やかな秋空の中、山田敏彦農場長をはじめとする本センターの教職員、本センターを利用する農学部教員、畜産科学科の学生など約80名の関係者が参列しました。

生物生産研究農場では、自給飼料を主体とする物質循環型の持続的な家畜生産が継続的に営まれ、様々な教育・研究に利用されています。また、飼料

畑での作物の栽培・生産から得られる飼料に基づいて家畜を飼養し、得られる牛乳や食肉を加工して畜産製品を製造するという一連の流れを教育の中心としており、これらの教育・研究活動に対して、多大な貢献をした家畜・家禽に感謝し、その御霊を供養するために毎年畜魂祭を行っています。

はじめに山田農場長の挨拶の後、参列者全員で畜魂碑に拝礼しました。その後、中小家畜生産研究施設、酪農生産研究施設及び畜産製造施設より、家畜・家禽の飼養頭数や利用実績等の報告があり、最後に山田農場長から、世

界的には人口増加や経済発展に伴って肉需要が急増しているなかで、自然環境破壊、水資源不足、土壌・水質汚染など多くの環境問題に今後直面していかなければならないことや、食資源の確保、北海道の畜産の重要性などについて紹介があり、参列者一同は、持続的な畜産生産システムや高付加価値生産システムの構築に向けて、教育・研究の推進や技術の向上が不可欠であるという思いを新たにしました。

（北方生物圏フィールド科学センター）



畜魂碑



畜魂碑に御神酒を捧げる山田農場長



拝礼する職員・学生



利用実績等の報告をする職員

薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙

薬学研究院・薬学部では、11月4日（金）に本研究院並びに本学部の教育と研究のために供された実験動物の慰霊祭を臨床薬学講義室にて執り行い、教員、学生など約100名の関係者が参列しました。

慰霊祭では、動物実験委員会委員長の木原章雄教授より実験に供された動物に追悼の辞が述べられ、次いで、木原委員長の挨拶、参列者全員による黙祷及び献花が行われました。
生命科学及び薬学の教育や研究の発

展のために多大な貢献をした動物への諸霊の供養がしめやかに執り行われました。

（薬学研究院・薬学部）



追悼の辞を述べる木原委員長



献花する学生

歯学研究科で「動物供養祭」を挙

歯学研究科では、11月28日（月）に学部会議室において、動物供養祭を執り行いました。供養祭は、過去1年間に歯学教育・研究のため実験に供された動物（ラット、マウス計1,875体）への感謝と追悼のために毎年実施して

おり、教職員、学生等の動物実験関係者約30人が参列しました。

供養祭では、最初に横山敦郎歯学研究科長から挨拶があり、次いで動物実験委員会委員長の船橋 誠教授から、歯学研究の進歩に尊い命を捧げてくれ

た多数の実験動物の御霊の安らかなることを願う旨の「祭文」が捧げられ、最後に参列者全員により献花が行われました。

（歯学研究科・歯学部）



参列者に挨拶する横山研究科長



「祭文」を読み上げる船橋委員長



献花する参列者

歯学研究科で自衛消防訓練を実施

歯学研究科では11月8日（火）に自衛消防訓練を実施しました。

今回の訓練は、C棟7階喫煙室から出火したとの想定で、自衛消防隊長である横山敦郎歯学研究科長の指揮により、通報連絡班、避難誘導班、消火

班、救護班、防護措置班の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難者誘導、消火活動等の訓練を実施しました。

訓練終了後、横山研究科長から「今回の訓練は順調に実施できた。災害時

にはこの訓練を思い出して行動してほしい」との講評がありました。

（歯学研究科・歯学部）



緩降器を使用した避難訓練



消火器操作訓練の様子

情報基盤センターで防災訓練の実施

情報基盤センターでは、11月10日（木）、本センター自衛消防隊による防災訓練を行いました。

今回の防災訓練は、教職員をはじめとした約40名が参加して実施され、火災の発生を想定した初期消火、通報連絡及び避難誘導の訓練に加え、防災設

備点検業者による消火器の取り扱い説明を行いました。参加者は防災意識を新たにするとともに訓練の重要性を再認識していました。また、全国共同利用施設・学内共同利用施設として適切な防災体制を改めて確認することができました。

訓練終了後、高井昌彰情報基盤センター長より日頃からの防災の心構えについて注意喚起があり、訓練を無事終了しました。

（情報基盤センター）



初期消火措置班による消火訓練

北海道大学病院で北海道・サハリン州がんシンポジウムを開催

北海道大学病院は10月28日（金）、医学部学友会館「フラテ」大ホールにおいて、「北海道・サハリン州がんシンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、北海道とサハリン州との医療交流の促進を目的として、札幌医科大学附属病院、サハリン州立病院、サハリン州立がんディスプレイ（腫瘍予防診療所）との共催、北海道、サハリン州政府、公益財団法人日露医学医療交流財団の後援を受け、「公益信託北海道・ロシア極東医療交流基金」による助成事業として開催され、サハリン州からは政府関係者・医療関係者10名（団長：パク・アレクセイ・ケネノヴィチ サハリン州保健省大臣）が参加されました。

シンポジウム前日には、本院、札幌医科大学附属病院、医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院の視察が行われました。本院では、寶金清博病院長との懇談と院内見学が行われ、懇談では寶金病院長からの本院概要や日本の医学教

育制度等の説明に対して、パク大臣からはサハリン州における医師確保のための政府事業について紹介がある等、特に医師不足・偏在問題について意見が交わされました。

シンポジウムは、寶金病院長からの挨拶に引き続き、来賓の高橋はるみ北海道知事、パク大臣、ファブリーチニコフ・アンドレイ在札幌ロシア連邦総領事からご挨拶をいただき、開会しました。

第1部では、サハリン州立がんディスプレイのスタルツェフ・セルゲイ・スタニスラヴォヴィチ副院長から「サハリン州における腫瘍学部門の現状」、札幌医科大学の宮西浩嗣准教授から「肝癌のスクリーニングと化学療法の新展開」、大沼啓之助教授から「胃癌の早期発見と化学療法の新展開」、本学の西原広史特任教授から「ゲノム医療を切り拓く；クラーク検査について」と題し、4氏が講演を行いました。

第2部では、サハリン州立がんディスプレイのウホワ・イリーナ・イオシフォヴナ放射線診断科長から「サハリン州立がんディスプレイの悪性腫瘍発見能力」、本学の清水伸一教授から「実時間画像誘導機能を用いたスポットスキヤニング陽子線治療」、北里大学の岡本正人特任教授から「がん免疫療法の現状～チェックポイント阻害剤とがんワクチンを中心に～」と題し、3氏が講演を行いました。

活発な質疑応答が行われる等、本シンポジウムは盛会のうちに、山下敏彦札幌医科大学附属病院長からの挨拶で閉会しました。

がん治療に関する最先端の知見をサハリン側と共有できただけでなく、道内から100名を超える参加者が集まり、日口間の交流を深める大変有意義な会となりました。

（北海道大学病院）



高橋北海道知事からの来賓挨拶



ファブリーチニコフ総領事からの来賓挨拶



スタルツェフ副院長による講演



本院視察時の集合写真
（前列中央右：パク大臣、同中央左：寶金病院長）

北海道大学病院で指導医ワークショップを開催

医科

北海道大学病院臨床研修センターでは、10月1日（土）、15日（土）、第13回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップ（指導医講習会）を開催し、道内の臨床研修施設から指導医46名の参加がありました。

新医師臨床研修制度が導入された平成16年度以降、研修医を指導する医師の役割はますます重要になっており、本院では毎年、北海道内の教育病院における指導医の資質向上と、適切な指導体制の確立を目的として、このワー

クショップを開催しています。

本ワークショップは9のトピックスに焦点を当てたセッションに分かれており、各セッションでは「研修医のメンタルヘルス」「効果的なカンファレンス運営」等をテーマとした講義の後、グループ討論・ロールプレイ・全体発表等を通して、参加者同士が互いに学び合い、考えを深めました。

全日程終了後、石森直樹医科卒後臨床研修部門副部門長より、参加者代表の新垣雅人医師（本院循環器・呼吸器

外科）へ修了証書の授与が行われました。

計16時間にわたる濃厚な講習会を修了した参加者からは「普段意識していなかった指導方法・評価について見つめ直す機会となった」「従来考えていた指導・教育のイメージとは異なる考え方や手法の必要性を学ぶことができた」等の感想が寄せられ、実りある講習会となりました。



真剣にグループワークを行う参加者



参加者全員での集合写真

歯科

11月12日（土）・13日（日）に、第7回指導歯科医講習会を開催しました。本講習会は研修医の指導にあたる中堅・ベテラン層の歯科医師の指導的資質向上を目的として企画され、道内の臨床研修施設から指導歯科医26名の参加がありました。

講習会は小グループ単位でのワーク

ショップをメインとして行われ、研修医の評価や指導方法などをテーマに活発な議論がなされました。特に指導方法の議論では、実際に指導医及び研修医になりきって追真のロールプレイングを行い、良い指導方法について意見を交わしました。

全プログラムの修了後には、井上

哲歯科卒後臨床研修部門長より、参加者代表の中村英司氏（札幌市）へ修了証書の授与が行われました。2日間計16時間というハードな日程での開催でしたが、修了後の参加者からは「明日から臨床教育の場でこの経験を活かしていきたい」等の意見が寄せられ、有意義な講習会となりました。



ロールプレイングの様子



修了証書授与

（北海道大学病院）

附属図書館で第2回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催

附属図書館は、研究戦略室、大学力強化推進本部、高等教育研修センターとの共催で、11月4日（金）、理学部大講堂において、第2回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催しました。

ワークショップは、「国内外のオープンサイエンスに関する動向と展望」をテーマとして、国立情報学研究所の北本朝展准教授から「オープンサイエンスとサステナビリティ～データ駆動型サイエンスの鍵を握る持続可能なデータプラットフォーム～」、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程の池内有為さんから「オープンサイエンスの種をまく：大学図書館とデータライブラリアンの挑戦」と

題したご自身の研究等の事例を交えた国内外の動向についてご講演をいただきました。

その後、富田健市附属図書館事務部長を加えた3名でパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、「日本でオープンサイエンスを推進するためには」「オープンサイエンスの推進において研究

者・研究支援担当者・図書館職員などそれぞれの役割や連携」等をテーマとしてディスカッションが行われました。

会場からも多くの質問があり、時間いっぱいまで活発な意見交換が行われました。

（附属図書館）



会場の様子



パネルディスカッションの様子

総合博物館にバリアフリー玄関並びに木製デッキを設置

すべての人に開かれた博物館～ユニバーサルミュージアム～をめざす総合博物館に、この度、バリアフリー玄関と木製デッキを設置しました。

バリアフリー玄関は、外光を取り込む明るいガラス張りの造りで、車いすでスムーズに入館できる電動昇降機を設置しています。1929年に建てられた歴史ある理学部本館の建物に調和させつつも、バリアフリー機能を備えた設備となるように、学内の様々な組織と関係者が協働して造り上げました。

バリアフリー玄関へ続く階段としてだけでなく、ベンチとしても使用できる機能を備えている木製デッキは、工学研究院建築史意匠学研究室の学生がデザインしました。デッキの木材として、北方生物圏フィールド科学セン

ター中川研究林からトドマツを提供してもらい、農学研究院木材工学研究室による監修のもと、製材並びに搬送には本学OBの堀川林業株式会社の協力を得ました。

11月4日（金）、設備完成に伴う記念セレモニーを行いました。中川光弘館長をはじめ、工学研究院の小澤丈夫教授、木製デッキをデザインした工学院修士課程2年の小川史洋さんが挨拶を行いました。その後、車いすの来館者にご協力いただき、電動昇降機利用のデモンストレーションを行いました。これを第一歩として、ユニバーサルミュージアムへの道を、今後も皆様とともに歩みたいと考えています。

（総合博物館）



正面玄関横にバリアフリー玄関を設置



車いす用電動昇降機のデモンストレーション

総合博物館で坂本直行生誕110年記念企画展示 「直行さんのスケッチブック展」を開催

総合博物館では、11月4日（金）から平成29年1月9日（月・祝）まで、北大山岳館との共催による企画展示「直行さんのスケッチブック展」を開催し、北大OBで山岳画家として著名な坂本直行さんのスケッチブック、木版画、登山道具などを公開しています。

直行さんは、北海道帝国大学農学実科在学中に、北大山岳部の創立部員として活躍し、卒業後は開拓者として十勝に入植しました。悪戦苦闘の甲斐なく開拓に挫折し、画業に専念した直行さんは、日高山脈を中心に北海道や本州、ヒマラヤ、カナディアン・ロッ

キーの山々、身近な草花を描き、素晴らしい作品を残しています。

本企画展では、直行さんの生涯を学生時代・十勝開拓時代・豊似アトリエ時代・手稲アトリエ時代の4つに区分し、直行さんのご遺族から寄贈され北大山岳館が収蔵する貴重な作品や資料の中から、各時代を代表するスケッチを選定、関連資料と合わせて展示しています。直行さんにゆかりのある方々が講師となり、登山家、山岳画家、幕末の志士・坂本龍馬の子孫など、様々な顔をもつ直行さんを紹介した記念講演会も大変盛況でした。

4日（金）のオープニングセレモニーでは、中川光弘館長、北大山岳部OB会の北大山の会の小泉章夫会長、直行さんが「秀岳荘」の名付け親だという株式会社秀岳荘の金井哲夫会長にご挨拶いただきました。テープカットの後、開場を心待ちにされていた皆様が企画展示室へと入場し、一つひとつの作品を熱心に見つめる姿が印象的でした。

（総合博物館）



開場直後の展示室の様子



日高山脈の山並みに合わせてスケッチを配置

工学部土木工学科卒業生の関係資料を大学文書館で受贈

11月21日（月）、大学文書館では、川村政良氏（工学部土木工学科1958年卒業）より、1954～1958年在学関係資料10点をご寄贈いただきました。一般教養部の「学生証」、工学部の「身分証明書」、学生部発行の「求職学生登録票」、「北海道大学創基80周年記念社交ダンス講習会会員証」、「北大協組学生書房利用カード」といった証明カードが8点、学生服姿の写真が2点です。大学が発行した「学生証」や「身分証明書」の様式、学生の服装は、時代によって様々であり、今回ご

寄贈いただいた資料は、新制大学初期を表す学生資料として大変貴重なものです。

また、同日、川村氏のご紹介により、町田智津子氏から、北海道帝国大学工学部土木工学科1941年卒業の町田利武氏（1918-1999）の旧蔵資料2件をご寄贈いただきました。ご寄贈いただいた資料は、土木工学科卒業記念写真帖（1941年）の複製データと、卒業後に第七師団に入隊した町田利武氏が描いた「絵日記」（1943年6月21日～11月14日、藁半紙・和装綴1冊）で

す。卒業記念写真帖には、スナップ写真も多数貼付されており、生き生きとした学生生活が伝わってきます。また、「絵日記」は、小樽からウルップ島への船内の様子、ウルップ島上陸後の軍隊生活と島の風景・動植物について、鉛筆や毛筆によって精緻に描かれています。

ご寄贈いただいた資料については、今後、大学文書館において大切に保管し、広く利用に供してまいります。

（大学文書館）



川村氏の1954～1958年在学資料



ウルップ島での町田利武氏の絵日記（1943年）



土木工学科卒業記念写真帖（1941年）

佐藤昌介博士肖像画を大学文書館で受贈

11月28日（月）、大学文書館では、佐藤ユリ氏より、札幌農学校第1期生・初代総長の佐藤昌介（1856-1939）を描いた肖像画をご寄贈いただきました。

ご寄贈いただいた肖像画は、1912（大正元）年4月3日、「佐藤博士就職二十五年記念祝賀会」より、佐藤昌介（当時、東北帝国大学農科大学長）に贈呈された油彩画（キャンバス・木彫額）です。油彩画の作者は、白樺派を代表する洋画家の有島生馬（壬生馬）です。制作にあたって、有島生馬は、佐藤昌介の肖像写真と制作依頼の書簡を、兄である有島武郎（当時、大学予科教授）から受け取っています。その書簡には、「彼れは全く妥協のみの人にあらず其の奥には一個の主張あり…平常寡言なれども一度破顔寛話すれば一派の春風を呼び来るに足る」と、有島武郎の眼から見た佐藤昌介が表され

ていました（『有島武郎全集』第13巻、筑摩書房、1984年、250～251ページを参照）。

ご寄贈いただいた肖像画は、今後、大学文書館内の展示スペースに飾り、来館された皆様にご覧いただけます。

本年は、北海道大学創基140周年で

あると同時に、佐藤昌介博士生誕160周年の年でした。それを記念して、2017年内に企画展示「佐藤昌介とその時代」（仮題）を開催したいと考えています。

（大学文書館）



佐藤昌介博士肖像（1912年）

物質科学リーディングプログラム第4回国際シンポジウムを開催



国際シンポジウムの集合写真

物質科学フロンティアを開拓する Ambitiousリーダー育成プログラム (ALP) では、11月8日(火)・9日(水)に、“The 4th International Symposium on AMBITIOUS LEADER'S PROGRAM Fostering Future Leaders to Open New Frontiers in Materials Science (物質科学リーディングプログラム第4回国際シンポジウム)”を開催しました。本シンポジウムの開催は、プログラム生の国際的実践力の養成を目的としており、講演会やポスターセッションに加えて、海外からの招聘者との交流に重点を置いたワークショップ行いました。ワークショップはプログラム生が主体となり企画・運営を行いました。

初日は、石森浩一郎プログラムコーディネーターの開会の挨拶で国際シンポジウムがスタートしました。冒頭の挨拶に続き、Srihari Keshavamurthy教授(インド・インド工科大学カーンプル校)、荒井 迅准教授、村上洋太教授(理学研究院)、Etienne Gindensperger教授(フランス・ストラスブール大学)、Cathleen Crudden教授(カナダ・クイーンズ大学)、渡慶次学教授(工学研究院)らが世界最先端の研究について講演しました。講

演者の専門分野は、化学、数学、生物学、工学と多岐にわたりますが、プログラム生は、自分の専門を超えた内容に対しても、積極的な質問を数多く行っていました。また、講演者からはグローバルに活躍するために身につけるべきことが語られ、学生は大いに鼓舞されていました。シンポジウムの後半では、夜のポスター発表を控えた学生がポスタープレビューを行い、各自の研究内容を紹介しました。初めての英語での発表でも、学生の多くは堂々とこなし、カリキュラムの一つである語学学習の成果を発揮する良い機会となりました。

夕方からは定山溪に移動し、シンポジウムに参加した大学院生がポスター発表を行いました。活発な議論は夜遅くまで続き、研究内容の理解を深めると共に、シンポジウムに参加した学生間で交流を深めました。参加者の投票で決定するポスター賞では、最優秀賞をMina R. Narouz(カナダ・クイーンズ大学)が、優秀賞を藤森俊和さん(総合化学院, ALP)、大塚 海さん(生命科学院, ALP)が受賞しました。

翌日は、プログラム生が企画したワークショップを行い、海外から参加した大学院生と本学の大学院生が混合

グループをつくり、英語でみっちりトディスカッションを行いました。TED Talksのプレゼンテーションを題材とし、Jim Al-Khalili教授(イギリス・サリー大学)の“どのように量子生物学は生命最大の疑問に答えられるのか?”, 地球科学者Andrés Ruzo博士(グラス在住)の“アマゾンの煮えたぎる川”を視聴した後、“異分野交流のための最善策-異分野共同研究を促進するための新規シンポジウムの設計-”をテーマに議論しました。いずれのグループでも活発な議論が展開され、ワークショップの最後に各グループが融合型研究についての意見を発表しました。投票により、“Imagine 2030”と題して発表を行ったグループがベストプレゼンテーションアワードを受賞しました。

本シンポジウムに参加したプログラム生は、自分たちの専門力の深化にとどまらず、国際シンポジウムの企画・運営を通じて、グローバルリーダーたる素養を獲得するための貴重な経験を積むことができました。

(総合化学院)



フロンティア応用科学研究棟で行われたシンポジウムの様子



ポスタープレビューで研究紹介を行う様子



ワークショップでベストプレゼンテーションアワードを受賞したグループ

■お知らせ

次世代シーケンサーなど先端機器類の共用を開始

フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点には、共同研究のための実験室や共用機器室、市民の皆様にもご利用いただける多目的ホール、オープンカフェなどが設けられた、“ひとつ屋根の下”をコンセプトとした産学官と市民が多様な形で集うことのできる施設です。

FMI国際拠点の共用機器室に導入された次世代シーケンサー（HiSeq2500）をはじめとする最先端の解析機器群の一部は10月より共用を進めていましたが、北海道大学オープンファシリティへの登録が終了し、すべての機器類について12月1日（木）より正式に共用を開始しました。

機器の利用、データ解析など、お気軽にご相談ください。

◆北海道大学オープンファシリティ

<https://openfacility.cris.hokudai.ac.jp/>

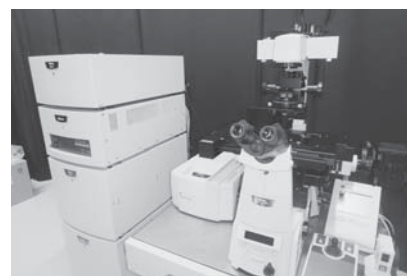
（産学・地域協働推進機構）



HiSeq2500 (Illumina)



Orbitrap Elite (Thermo Fisher)



A1Rsi (Nikon)

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成28年11月9日）

議案・クロスアポイントメントの適用について

協議事項・重要な財産を譲渡する計画について

・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・平成28年度資金の運用状況について（上半期）

・超過勤務実績について

・財務レポート2016について

教育研究評議会（平成28年11月21日）

議題・経営協議会の学外委員について

・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・次期総長の選考について

役員会（平成28年11月28日）

議案・諸規則の制定及び一部改正について

協議事項・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

・平成28年度中間決算について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程

(平成28年11月30日海大達第198号)

平成29年4月1日付けで、学生寮の寄宿料の額を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程

(平成28年11月30日海大達第199号)

平成29年4月1日付けで、インターナショナルハウスの使用料等の額を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学借上宿舎等規程の一部を改正する規程

(平成28年11月30日海大達第200号)

平成29年4月1日付けで、借上宿舎等の使用料及び寄宿料の額を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学情報セキュリティ基本規程

(平成28年12月1日海大達第202号)

本学の情報セキュリティに関する基本理念を定め、その確保のための施策を推進し、もって本学の情報資産を保護し、教育研究活動、社会貢献活動、管理運営等を安全かつ効率的に展開することを目的として、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成28年12月1日海大達第201号)

本学の情報セキュリティを管理する組織及び体制の見直しにより、情報環境推進本部の業務を整理することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程の全部を改正する規程

(平成28年12月1日海大達第203号)

本学の情報セキュリティを管理する組織及び体制を見直し、その確保のための措置を設けることに伴い、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程

(平成28年12月1日海大達第204号)

情報セキュリティ委員会と情報環境推進本部の関係を明確化するため、委員会の構成及び審議事項について整理し、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学情報セキュリティポリシー例外措置規程

(平成28年12月1日海大達第205号)

本学の情報資産について、情報セキュリティに関連する規程に対する例外措置を設けることに伴い、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学情報環境推進本部規程の一部を改正する規程

(平成28年12月1日海大達第206号)

情報環境推進本部に情報化推進室及び情報セキュリティ対策室を設置するとともに、同本部の業務を整理することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

(平成28年12月1日海大達第207号)

本学の情報セキュリティを管理する組織及び体制の見直しにより、個人情報保護する体制について整備することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成28年12月1日海大達第208号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
(平成28年12月1日海大達第209号)

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、材料加工に使用する設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

平成28年度北海道地区大学等留学生担当職員研修

開催期間：平成28年11月9日・10日

開催場所：国際連携機構

研修目的：北海道地区の留学生交流事務を担当する大学等の職員に対し、留学生交流（留学生の派遣・受入）に関する専門的知識を実践的手法により習得させ、職員の資質の向上と事務能率の増進を図ることを目的とする。



事例研究（留学生のこころの問題 あなたならどうする？）



危機管理シミュレーション

(国際部国際交流課)

■ 表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
28.11.4	駐日フランス大使館 ビエール・コリオ 文化参事官	着任挨拶及び両国の交流に関する懇談



駐日フランス大使館
비에ール・コリオ 文化参事官（前列中央）

(国際部国際連携課)

■ 人事

平成28年11月19日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 国際連携研究教育局講師	NAM JIN-MIN	国際連携研究教育局助教

平成28年11月29日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	林 禄 清	大学院薬学研究院助教

平成28年12月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【総長補佐】 (期間：平成29年3月31日まで)	村 松 正 隆	大学院文学研究科准教授
【助教】 遺伝子病制御研究所助教	住 谷 瑛理子	採用

資料

平成28年度外国人留学生数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

【部局別】

学部等

平成28年11月1日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文 学 部	1(1)	1(1)				114(90)	116(92)
教 育 学 部	1(1)				2(1)	27(22)	30(24)
法 学 部						12(8)	12(8)
経 済 学 部	1(1)	1(1)				53(36)	55(38)
理 学 部					2	14(7)	16(7)
医 学 部	1				2(1)	3(2)	6(3)
歯 学 部							
薬 学 部						1	1
工 学 部	22(3)		7(2)	9(4)	15(4)	23(8)	76(21)
農 学 部	3(2)				2(1)	7(5)	12(8)
獣 医 学 部					1(1)	21(15)	22(16)
水 産 学 部					2(1)	11(5)	13(6)
現代日本学プログラム課程					11(9)		11(9)
高等教育推進機構総合教育部	10		3(2)		29(17)		42(19)
合 計	39(8)	2(2)	10(4)	9(4)	66(35)	286(198)	412(251)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文 学 研 究 科	6(1)		10(3)	2			4(4)		62(43)		47(28)	22(20)	153(99)
法 学 研 究 科							3(1)	1	16(12)		15(5)	26(15)	61(33)
経 済 学 研 究 科	5(2)		1	1			1(1)		58(40)	2	5(3)	3(3)	76(49)
医 学 研 究 科			5(2)				3(1)	1(1)	7(6)		17(10)	4(1)	37(21)
歯 学 研 究 科			1(1)								7(2)	1(1)	9(4)
獣 医 学 研 究 科			26(13)	3(1)			2(1)				21(14)	4(3)	56(32)
情 報 科 学 研 究 科	1		10(2)	2(1)			7(2)	1(1)	33(7)		28(9)	11	93(22)
水 産 科 学 研 究 院	1		6(3)				2(2)		15(8)		11(4)	7(3)	42(20)
水 産 科 学 研 究 院				1				1(1)					2(1)
環 境 科 学 研 究 院	13(8)		18(9)				2(1)		61(38)		38(17)	32(18)	164(91)
地 球 環 境 科 学 研 究 院				1									1
理 学 研 究 院	4(1)		10(2)				1		23(10)		27(5)		65(18)
農 学 研 究 院	14(9)		31(13)				4		17(9)		35(14)	17(12)	118(57)
農 学 研 究 院				3(3)				1(1)					4(4)
生 命 科 学 研 究 院	3		35(14)				2		10(7)		18(5)	2(1)	70(27)
先 端 生 命 科 学 研 究 院													
教 育 学 研 究 院			5(5)						36(30)		7(4)	1	49(39)
教 育 学 研 究 院												1	1
国際広報メディア・観光学院	2(1)		5(4)				1		61(52)		16(10)	2(1)	87(68)
メディア・コミュニケーション研究院												27(23)	27(23)
保 健 科 学 研 究 院	1(1)								5(5)		4(2)		10(8)
保 健 科 学 研 究 院												4(2)	4(2)
工 学 研 究 院	31(12)		40(10)				16(1)	3	49(10)		29(7)	14(7)	182(47)
工 学 研 究 院				4(1)								34(8)	38(9)
工 学 研 究 科											1		1
綜 合 化 学 学 院	1		14(9)		2(1)		3	1	10(2)		22(12)	1(1)	54(25)
公 共 政 策 学 教 育 部										13(9)		1(1)	14(10)
公 共 政 策 学 連 携 研 究 部												11(7)	11(7)
低 温 科 学 研 究 所												2(2)	2(2)
電 子 科 学 研 究 所												2(1)	2(1)
遺 伝 子 病 制 御 研 究 所												2	2
触 媒 科 学 研 究 所				1								2(2)	3(2)
スラブ・ユーラシア研究センター				1									1
情 報 基 盤 セ ン タ ー												7(3)	7(3)
北方生物圏フィールド科学センター								1(1)				3(1)	4(2)
観 光 学 高 等 研 究 セ ン タ ー				1								1(1)	2(1)
国 際 連 携 機 構												1	1
高 等 教 育 推 進 機 構													
合 計	82(35)		217(90)	21(6)	2(1)		51(14)	10(5)	463(279)	15(9)	348(151)	251(140)	1,460(730)

日本語研修生等

国 際 連 携 機 構	日本語・日本文化研修生			日 本 語 研 修 生		合 計
	国 費	外国政府派遣	私 費	国 費	私 費	
	17(13)	2(2)	23(14)	9(1)	26(19)	77(49)

外国人留学生及び外国人学生 総数

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研 究 生 等	日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生	留 学 生 総 数	外 国 人 学 生 〔「留学」以外〕	留 学 生 及 び 外 国 人 学 生 総 計
	修 士 課 程	専 門 職 学 位 課 程	博 士 課 程					
115(47)	547(315)	15(9)	616(255)	579(355)	77(49)	1,949(1,030)	61(26)	2,010(1,056)

* () 内は女子を内数で示す。

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む。

(国際部国際教務課)

北大時報掲載記事事項別一覧（平成28年掲載分）

表紙

- 1月号 ・サステナビリティ・ウィーク2015
- 2月号 ・恵迪寮同窓会「新年寮歌始めの会」
- 3月号 ・一般入試前期日程の合格発表（2016.3.7）
- 4月号 ・マレーシア高等教育大臣の陽子線治療センター視察
- 5月号 ・北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式
- 6月号 ・新渡戸カレッジ対話プログラム
- 7月号 ・6 研究所・センター合同で一般公開を開催
- 8月号 ・総合博物館リニューアルオープン
- 9月号 ・北方生物圏フィールド科学センター「じゃがいも掘り」
- 10月号 ・北海道大学ホームカミングデー2016「歓迎式典・記念講演会」
- 11月号 ・北方生物圏フィールド科学センター「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」
- 12月号 ・総合博物館にバリアフリー玄関並びに木製デッキ設置

裏表紙

- 1月号 ・北の鉄道風景（34）日本海沿いのローカル線
- 2月号 ・北の鉄道風景（35）蓮葉水
- 3月号 ・北の鉄道風景（36）ディーゼル機関車DD51
- 4月号 ・北の鉄道風景（37）海峡を越えて
- 5月号 ・北の鉄道風景（38）森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号
- 6月号 ・北の鉄道風景（39）日本一の秘境駅
- 7月号 ・北の鉄道風景（40）噴火湾
- 8月号 ・北の鉄道風景（41）オオハンゴンソウ咲く頃
- 9月号 ・北の鉄道風景（42）残照の中を
- 10月号 ・北の鉄道風景（43）黄葉の山路に挑む
- 11月号 ・北の鉄道風景（44）秋から冬へ
- 12月号 ・北の鉄道風景（45）雪夜に駆ける

総長告辞等

- 1月号 ・年頭の挨拶
- 4月号 ・告辞（学士学位記授与式、入学式）

役員便り

- 2月号 ・新渡戸スクール：グローバル人材育成と大学院教育改革を目指して
- 3月号 ・海外オフィスとグローバル教育推進センターについて
- 5月号 ・総合IR室：情報を集約・分析して、持続的な発展を目指す
- 6月号 ・北海道大学校友会エルム設立について
- 7月号 ・「社会の中の知の拠点」へ
- 8月号 ・新渡戸スクール：1年を振り返って
- 9月号 ・GI-CoREにおける国際連携を核とした新しい3学院の設置について
- 10月号 ・次の世代のための大学経営改革：人件費改革について
- 11月号 ・Hokkaidoサマー・インスティテュート2016を終えて
- 12月号 ・大学におけるコンプライアンスの推進

- 10月号 ・国立大学法人における予算の仕組みについて

全学ニュース

- 1月号 ・「理事主催記者懇談会」を開催
- ・サステナビリティ・ウィーク2015の開催
- ・サステナビリティ・ウィーク2015を振り返って
- ・工学研究院公開講座 神秘的な物質～その科学と応用～
- ・シンポジウム ボルネオの持続可能な土地管理と生物多様性
- ・TEDxHokkaidoU 2015 Allure of Adventure ～冒険の誘惑～
- ・触媒科学研究所 国際シンポジウム
- ・北方圏のまちづくり・エネルギー・木造建築に関する国際シンポジウム
- ・学術成果のオープンアクセスとHUSCAP
- ・ワークショップ 国際交流のスキル ―教養・学部・修士学生のための国際コミュニケーション―
- ・ワークショップ 国際交流のスキル ―博士学生と研究者のための国際交流スキル―

- ・女性研究者の持続的な活躍を目指して～研究人材の多様化と研究者支援のあり方～
- ・第8回セラミド研究会学術集会
- ・ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ
- ・脆弱な巨大炭素貯蔵庫—熱帯泥炭林—を監視する 温暖化緩和のために
- ・臭いものに蓋をしない？：「フン」をめぐる文化論や技術論—アフリカやアジアの事例から—
- ・留学希望者向けセミナー —SD on Campus—
- ・お口の健康と歯科医療 その1—患者サイドに立った知識の浸透—
- ・研究倫理国際ワークショップ —教育方法とその有効性の検証—
- ・国際シンポジウム 地域社会へ与える考古学の影響—ポストコロニアル時代の考古学と先住民コミュニティ—
- ・GiFT2015—Global Issues Forum for Tomorrow—世界の課題解決に向けたフォーラム
- ・北海道大学—フィンランド ジョイントシンポジウム
- ・次世代コージェネレーションシステム公開シンポジウム～コージェネレーションネットワークの普及に向けて～
- ・情報科学研究科／北海道産官学研究フォーラム 特別セミナー 社会インフラのスマートエイジングとアセットマネージメントを追求する学際研究
- ・2015北の縄文フォーラム —縄文文化の魅力と価値について—
- ・CLARK THEATER 2015—Lead—
- ・経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターシンポジウム
- ・同性パートナーシップ制度導入を考える
- ・第3回国際協力カフェおよびイベント
- ・周縁から越える「境界」—日韓演劇人の越境のかたち
- ・低温科学国際シンポジウム
- ・サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2015
- ・HULT PRIZE@北海道大学 学内コンペティション
- ・第18回ソウル大学校・北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
 - ・分科会1：The 4th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering
 - ・分科会2：Chemical Exposures among Sensitive Populations and Environmental Health Implications
 - ・分科会3：SNU-HU-NTNU-KU Joint Symposium on Asian Science Education in the 21st Century
 - ・分科会4：Toward Understanding of Changing Environment
 - ・分科会5：2015 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology
 - ・分科会6：Drug Discovery and Smart Nanomedicine
 - ・分科会7：The 11th HU and SNU Symposium on Mathematics - Mathematical Analysis and Applications
 - ・分科会8：Traveling Asia and Geographical Imaginaries
 - ・分科会9：Electrons in Chemistry
 - ・分科会10：Future Education with ICT
 - ・分科会11：The 10th Japan-Korea International Symposium in Ophthalmology
 - ・分科会12：The 3rd Seminar on Renewable Energy and Indoor Air Environment for Comfort and Energy Conservation in Buildings
 - ・分科会13：The 11th SNU-HU Joint Symposium on Mechanical and Aerospace Engineering
 - ・分科会14：Present Situation and Future Perspective on Crop Production in Japan and Korea
 - ・分科会15：Application of Cutting Edge Science to Veterinary Clinical and Applied Sciences
 - ・分科会16：Compressed Modernity and Liberalism in Asia
 - ・分科会17：3rd HUH-SNUH-SHH Joint Symposium
 - ・分科会18：Russian Culture：Daily Life and Festivity
 - ・分科会19：Understanding & Managing Risks of Short-Term Study Abroad Programs
- ・第1回サステイナブルキャンパス賞2015（大学運営部門）を受賞
- ・大学入試センター試験の実施
- ・北大フロンティア基金
- ・平成27年度補正予算（第1号）案（本学関係分）の主要事項
- ・平成28年度予算案（本学関係分）の主要事項
- ・取引先を対象に「調達制度に関する説明会」を開催
- ・第12回国立大学法人等監事協議会総会の開催
- ・「平成27年度冬山登山講習会」を開催
- ・「北海道地区FD・SD推進協議会」総会を開催
- ・講演会「優秀な留学生の獲得に向けて」を開催
- ・留学生のための救命講習会を開催
- ・研究者のためのスキルアップセミナー⑦「読む読まないはタイトルで決まる」を開催
- ・「学生の学習を促進する少人数演習型授業のためのコースデザインワークショップ」を開催
- ・「第6回北大発ベンチャー促進懇談会11月例会～クラウドファンディング×ITベンチャー・スタートアップ～」を実施
- ・第10回アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoに出展
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第27回「赤い糸会&緑の会」を開催
- ・平成27年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙

- ・北海道大学一般入試の志願状況
 - ・AO入試合格者の発表
 - ・北海道大学及び学校法人北海道科学大学職員の短期相互派遣研修を実施
 - ・ループリック評価スタートアップ研修を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・第11回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催
 - ・未来創業・医療イノベーション拠点形成事業 第13回国際シンポジウム「イノベーション拠点形成事業の10年と明日」を開催
 - ・第36回創成科学サロン「初夢を語る」&北キャンパス合同新年会を開催
 - ・「知的財産セミナー」を札幌キャンパス及び函館キャンパスで開催
 - ・北海道地域3大学1高専1公設試による新技術説明会を開催
 - ・レアアース（希土類）レスモータを「札幌モーターショー2016」に出展
 - ・「若手人材育成シンポジウム“シンフォスター2016”」を開催
- 3月号**
- ・本学職員表彰を実施
 - ・「総長主催記者懇談会」を開催
 - ・NHK Eテレ「新世代が解く！ニッポンのジレンマ」の番組収録に協力
 - ・第7回さっぽろ環境賞生物多様性保全部門地域賞を受賞
 - ・北海道大学一般入試（前期日程・後期日程）及び私費外国人留学生入試の実施と合格者の発表
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成27年度北大ペンハロー賞授与式を挙
 - ・留学生センター日本語研修コース修了式（2015年10月入学者）
 - ・平成27年度外国人留学生歓迎・送別懇談会を開催
 - ・タンザニア連合共和国ダルエスサラーム大学で「日本留学フェア」を開催
 - ・北海道大学ザンビア同窓会を設立、ルサカで同窓生懇談会を開催
 - ・北海道地区国立大学教養教育連携実施事業FDフォーラム「発展する遠隔授業」を開催
 - ・シンポジウム「FDの実質化に向けた協力体制の構築」を開催
 - ・平成27年度第2回「北海道大学TF研修会」を開催
 - ・マネジメント能力開発ワークショップ「プロジェクト・マネジメント入門」を開催
 - ・「グローバルファシリティセンター」の設置及び「キックオフシンポジウム」を開催
 - ・「第7回北大発ベンチャー促進懇談会1月例会」「第8回北大発ベンチャー促進懇談会2月例会」を実施
 - ・平成27年度「北海道ビジネスフォーラム～ふるさと応援～」(名古屋地区)に参加
 - ・セミナー「本場の本物をオホーツクから～北海道大学同窓会の食品産業エルム会からのご提案～」を実施
 - ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第28回「赤い糸会&緑の会」を開催
- 4月号**
- ・平成27年度学位記授与式の挙
 - ・総長告辞（学士学位記授与式）
 - ・来賓祝辞（学士学位記授与式）
 - ・平成28年度入学式の挙
 - ・総長告辞（入学式）
 - ・役員等を対象とした「情報セキュリティ講習会」を開催
 - ・ベトナム政府叙勲に北海道大学病院の三古谷忠診療教授
 - ・本学永年勤続者表彰に74氏
 - ・名誉教授に32氏
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成28年度北海道大学の予算
 - ・平成27年度北海道大学大塚賞授与式を挙
 - ・平成27年度クラーク賞表彰式を挙
 - ・平成27年北大えるむ賞授与式を挙
 - ・平成27年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－表彰式を挙
 - ・平成27年度北海道大学企業研究セミナーを開催
 - ・北海道大学交流デー（忠北大学校、釜山大学校）を開催
 - ・北海道大学交流デー（ゲント大学）を開催
 - ・北海道大学交流デー（中国 南開大学）を開催
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子理工学グローバルステーションが第3回シンポジウムを開催
 - ・「アクティブ・ラーニング入門ワークショップ」を開催
 - ・「TF振り返り研修会」を開催
 - ・「Teaching in Englishワークショップ（第1回）」を開催
 - ・平成27年度総長室事業推進経費による研究支援事業（Fusion-II）研究成果報告会を開催
 - ・「平成27年度工作技術フォーラム」を開催
 - ・第13回創成シンポジウム「ためてませんか？フードマイレージたべて・つくる・みらい」を開催
 - ・第12回「食と健康」研究会を開催
 - ・北海道地域4大学1高専による新技術説明会を開催

- 5月号
- ・北大発ベンチャー促進懇談会年次報告会を開催
 - ・保健センターで第3回健康キャンパス北大「健康づくり支援セミナー」を開催
 - ・北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙
 - ・春の叙勲に本学から6氏
 - ・北大フロンティア基金
 - ・韓国科学技術院（KAIST）と大学間交流協定を締結
 - ・マレーシア・サバ大学と大学間交流協定を締結
 - ・ケンブリッジ大学教授トム・ブランデル卿による特別講演会を開催
 - ・「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙
 - ・北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
 - ・「韓国北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式及び韓国北海道大学ヨルリョンチョン協会発足式」を開催
 - ・平成28年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催
 - ・産業競争力懇談会（COCN）北海道大学サイトビジットを開催
- 6月号
- ・名誉教授称号授与式の挙
 - ・北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙
 - ・山口総長が台日大学学長フォーラムへ参加
 - ・北大フロンティア基金
 - ・札幌キャンパスで第13回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
 - ・新渡戸カレッジで対話プログラムを開始
 - ・平成28年度新渡戸カレッジ入校式を挙
 - ・新渡戸カレッジ5月学内合宿を実施
 - ・平成28年度新渡戸スクール入校式を挙
 - ・「製薬企業等6社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催
 - ・北大発ベンチャー称号記授与式を挙
 - ・「学習への動機づけを行う授業スキル」ワークショップを開催
 - ・新任教員向け研修「知って活用したい北大の諸制度」を開催
 - ・「クリッカーの使い方入門」研修を開催
 - ・ワークショップ「効果的なグループワークのためのファシリテーション入門」を開催
 - ・「21世紀の超スマート社会に関するフォーラム」を開催
- 7月号
- ・大学文書館で見学会を開催
 - ・「総長室事業推進経費による北大教育改革に係る研究成果発表ワークショップ」を開催
 - ・ワークショップ「学生の思考を深め、発言を促すための問いかけと場づくり」を開催
 - ・第29回北海道大学教育ワークショップを開催
 - ・平成28年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙
 - ・平成28年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙
 - ・北大フロンティア基金
 - ・キャンドルナイト in 北大2016を開催
 - ・「北海道大学フィンランドデー～みんなで夏至祭を楽しもう!!」を開催
 - ・「GI-CoREソフトマターグローバルステーションキックオフ国際シンポジウム」を開催
 - ・2016 WinGS Global Networking Award 授賞式を開催
 - ・人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者（DC, PD）向けランチ・トークセミナーを開催
 - ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「キャリアパス多様化支援セミナー I 知的財産権」を開催
 - ・化学物質取扱講習会を開催
 - ・保健センターで「保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～」を開催
- 8月号
- ・北海道大学 緑のピアガーデン2016を開催
 - ・平成28年熊本地震被災者へ251万円の義援金
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成28年度北海道大学公開講座「『国のかたち』を案ずる時代の知恵」が終了
 - ・北海道大学入試説明会を実施
 - ・平成28年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙
 - ・日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を北方生物圏フィールド科学センターの2氏が受賞
 - ・北キャンパスで合同防災訓練を実施
 - ・国際本部で「ホリデーイン日高」を開催
 - ・現代日本学プログラム課程が新十津川町観光資源発掘に協力
 - ・「英語によるアカデミック・プレゼンテーションの基礎」研修を開催
 - ・ルーブリック評価表作成ワークショップを開催
 - ・英語発音力講座を開催
 - ・北海道地区国立大学における教職員及び学生の個人情報の取扱いに関する研修会を開催
 - ・イノベーション・エコシステムマッチングサミット in HOKUDAI 日立北大ラボ開設記念式典を開催
 - ・「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016」を実施

- ・北洋銀行ものづくりテクノフェア2016に出展
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第4回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催
- 9月号
- ・3つの国際大学院の設置が認可
 - ・泥炭地回復庁（インドネシア）との連携協定を締結
 - ・札幌キャンパスを駆け抜ける ―2016北海道マラソン―
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成28年度オープンキャンパスを開催
 - ・「北海道大学進学相談会」を東京で開催
 - ・北海道大学及び学校法人北海道科学大学職員の短期相互派遣研修を実施
 - ・平成28年度教員免許状更新講習を開催
 - ・グローバル教育推進センター日本語研修コース修了式並びに同コース、日本語・日本文化研修コース及び北海道大学短期留学プログラム合同送別会を開催
 - ・第2回「新キャンパスマスタープラン応援ワークショップ」を開催
 - ・北海道大学オープンエデュケーションセンターフォーラム「北海道大学におけるオープンエデュケーションの広がり」を開催
 - ・ワークショップ「英語でシラバスを作成する」を開催
 - ・平成28年度第1回北海道大学TF研修会を開催
 - ・女子中高生の理系進路選択プログラム「楽しくサイエンス！～いろいろな科学を知ろう～」を開催
 - ・人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者（DC、PD）向け移転可能研究力強化セミナーを開催
 - ・イノベーション・ジャパン2016に出展
 - ・第18回国立七大学安全衛生管理協議会を開催
- 10月号
- ・北海道大学ホームカミングデー2016の開催
―第5回ホームカミングデーを終えて―
 - ・総務企画部広報課
歓迎式典・記念講演会
 - ・文学研究科・文学部，教育学院・教育学研究院・教育学部，法学研究科・法学部，経済学研究科・経済学部
公開シンポジウム・同窓会総会・同窓会合同懇親会
 - ・医学研究科・医学部
北海道大学医学部フラテ祭2016
 - ・保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科
保健科学研究院ホームカミングデー
 - ・歯学研究科・歯学部
北大の歯学教育，研究，臨床の現状－創立50周年を控えて－
 - ・獣医学研究科・獣医学部
獣医学部同窓会平成28年度通常総会，新評議員会・新理事会，フォーラム「獣医学部とアフリカの関わり～歴史と将来～」，交流会，懇親会
 - ・情報科学研究科
北楡会・北海道大学情報系交流会
 - ・水産科学院・水産科学研究院・水産学部，北水同窓会
水産学部卒業生のつとめ～講演会～
 - ・環境科学院・地球環境科学研究院
松野環境科学賞授賞式，修了生講演会，コース・研究室紹介パネル展示，懇親会
 - ・理学院・理学研究院・理学部，生命科学院・先端生命科学研究院，理学部同窓会
理学部ホームカミングデー
 - ・農学院・農学研究院・農学部
市民公開・農学特別講演会
 - ・国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院
ホームカミングデー@IMCTS2016（修了生meet在学生2016）
 - ・工学院・工学研究院・工学部
北海道大学工学系イノベーションフォーラム2016，北工会サークル展示，保護者向けの講演会及び個別面談，同窓生向け講演会「知恵と多様性の翼で羽ばたく工学」，保護者・OB・OGとの全体懇親会
 - ・薬学研究院・薬学部
北海道大学薬学部の現状と第19回北海道大学薬学部生涯教育特別講座 秋季講演会
 - ・北方生物圏フィールド科学センター
「生物生産研究農場」ミニツアー，植物園の見学
 - ・附属図書館
企画展示：「所蔵写真と地図で辿る明治の北海道」パネル展示
 - ・総合博物館
企画展示「ランの王国」及び常設展示の展示解説

- ・大学文書館
特別展示「初期の札幌農学校」、常設展示「北大生の群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新渡戸稲造と遠友夜学校」
 - ・学務部教育推進課（北海道地区国立大学連携教育機構）
国立大学教養教育コンソーシアム北海道の取組
 - ・学務部学生支援課
北海道大学写真部・北大カメラクラブOB合同展、北海道大学合唱団ストリートライブ
 - ・北大キャンパスビジットプロジェクト
キャンパスツアーー現役北大生とめぐるキャンパス今昔ー
 - ・ほっかいどう同窓会
ホームカミングデーウエルカムランチパーティー
 - ・恵迪寮同窓会
文化講演会・大寮歌祭
 - ・平成28年度北海道大学インターンシップを実施
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞ー自然科学実験ー被表彰者の決定
 - ・平成28年度北海道大学フロンティア奨学金受給者の決定
 - ・平成28年度小島三司奨学金受給者の決定
 - ・独立行政法人日本学術振興会 平成27年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から3名
 - ・第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）に山口総長が出席
 - ・コチュテル・プログラム参加学生（シドニー大学）が来日
 - ・新入留学生オリエンテーションを実施
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第3回医学物理サマースクールを開催
 - ・「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙
 - ・国際シンポジウム「学生と共に創る教育の質保証～SA, TA, PFFなどのこれから～」を開催
 - ・Workshop on creating rubricsを開催
 - ・第30回北海道大学教育ワークショップを開催
 - ・平成28年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
 - ・研究者のためのスキルアップセミナー⑧「伝わるデザインの法則：外部資金獲得のためのレイアウトとデザイン」を開催
 - ・第37回創成科学サロン&夏の宴を開催
 - ・第1回食科学プラットフォームセミナーを開催
 - ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第29回「赤い糸会&緑の会」を開催
 - ・平成28年度北海道地区国立大学教養教育連携実施事業FDフォーラム「北海道から遠隔授業を考える」を開催
- 11月号**
- ・秋の叙勲に本学から4氏
 - ・喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーが「平成28年北海道功労賞」を受賞
 - ・独立行政法人日本学術振興会 平成28年度科研費審査委員の表彰に本学から11名
 - ・第12回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催
 - ・イチョウ並木の一般開放を実施
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成28年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催
 - ・「北海道大学進学相談会」を名古屋と大阪で開催
 - ・「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙
 - ・北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
 - ・平成28年度秋季外国人留学生ウエルカムパーティーを開催
 - ・インターナショナルハウス等で消防避難訓練を実施
 - ・秋のガレージセールを開催
 - ・留学生を対象に市民防災センター・旭山記念公園バスツアーを開催
 - ・北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画を開催
 - ・「製薬企業3社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催
 - ・キッズフォレスト2016「科学の森」に参加
 - ・科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）に参加
 - ・人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者（DC, PD）向けLunch Talk（Way of Tea）を開催
- 12月号**
- ・次期総長予定者として現・工学研究院長の名和豊春氏を選出
 - ・平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
 - ・北海道大学病院が平成28年度北海道知事賞（優良給食施設）を受賞
 - ・プレトリア大学と大学間交流協定を締結
 - ・AO入試合格者の発表
 - ・帰国子女入試合格者の発表
 - ・大学入試センター試験 本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
 - ・北大フロンティア基金

- ・情報セキュリティ対策セミナーを開催
- ・ケニア共和国ナイロビ大学で「日本留学フェア」を開催
- ・インドネシアとタイの北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式を開催
- ・第1回HUCIフォーラム「大学国際化は改革の原動力」を開催
- ・「平成28年度冬山登山講習会」を開催
- ・平成28年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催
- ・第31回北海道大学教育ワークショップを開催
- ・講演会「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」を開催
- ・女子中高生の理系進路選択プログラム「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」全3回を開催
- ・人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手研究者向け論文指導講座を開催
- ・北海道大学×技術ベンチャーセミナーを開催
- ・第30回ビジネスEXPO2016に出展
- ・高等教育推進機構等で自衛消防訓練を実施
- ・北キャンパスで合同防災訓練を実施
- ・平成28年度北海道地区国立学校等安全管理協議会を開催

部局ニュース

- 1月号**
- ・北海道大学病院が輔仁大学外国語文学院と部局間交流協定を締結
 - ・医学部医学科の学生がノーベル賞授賞式に出席
 - ・医学研究科寄附講座「がん予防内科学講座」市民医療セミナー及び感謝状贈呈式の開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター設立60周年記念国際シンポジウム・祝賀会を開催
 - ・薬学研究院・薬学部で特別講演「Nanostructured Biomaterials for Medical and Biological Applications」を開催
 - ・環境科学院で「若手博士人材向けのキャリア形成支援講習会」を開催
 - ・工学研究院工学系技術センター主催セミナー「ウェブサイト制作のキホンとトレンド教えます！」を開催
 - ・低温科学研究所技術部で第21回技術報告会を開催
 - ・北海道大学病院で「第53回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を実施
 - ・総合博物館がタイ王国科学技術博覧会2015へ企画展示を出展
 - ・「院生・若手研究者のための英語論文執筆セミナー」を開催
 - ・附属図書館で「救命導入（AED）講習会」を開催
- 2月号**
- ・薬学研究院・薬学部が韓国・忠南大学校薬学大学と部局間交流協定を締結
 - ・低温科学研究所がスペイン高等学術研究院と部局間交流協定を締結
 - ・水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターが福島吉岡漁業協同組合及び福島町との4者間の連携協定を締結
 - ・第2回北海道大学-国立台湾海洋大学ジョイントシンポジウムの開催
 - ・経済学部で北海道財務局理財部長の特別講演会を開催
 - ・経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターで講演会「中国諸地域、経済移行期における経済倫理の経路依存」を開催
 - ・農学院において「留学生新年会」を開催
 - ・農学研究院で講演会「アルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞 2002-2010」を開催
 - ・農学研究院で平成27年度第2回FD研修会を開催
 - ・工学系FD研修「eラーニング活用環境の現状把握セミナー」を開催
 - ・工学系部局でこころのケア講習会を開催
 - ・北海道大学病院で「第31回全国国公立大学病院集中治療部協議会」を開催
- 3月号**
- ・教育学部がロシア・サハリン国立大学教育学部と覚書を締結
 - ・教育学部におけるESDキャンパスアジア・プログラム2015 全日程を終了
 - ・平成27年度水産科学院・水産学部外国人留学生送別懇談会を開催
 - ・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2015」を開催
 - ・薬学部で第18回生涯教育特別講座冬季講演会を開催
 - ・農学研究院で「北海道に即した中核的林業技術者育成プログラムの開発事業」に関わる実証講座と成果報告会を開催
 - ・観光学高等研究センター、メディア・コミュニケーション研究院でジョイントワークショップを開催
 - ・低温科学研究所が大雪山で18年ぶりに雪の観察実験を実施
 - ・低温科学研究所でスノーランタンによるライトアップを実施
 - ・総合博物館「卒論ポスター発表会」を開催
 - ・附属図書館「第4回国際協力カフェ@北大図書館」及び「青年海外協力隊50周年記念展示」を開催
 - ・附属図書館本館で北海道地区機関リポジトリ実務担当者研修を実施
- 4月号**
- ・スウェーデン王国国会議員団が北海道大学病院を訪問
 - ・マレーシア高等教育大臣が北海道大学病院陽子線治療センターを視察
 - ・次世代ポストゲノム研究センターを改組し「次世代物質生命科学研究センター」を発足
 - ・先端生命科学研究院が“部局設置型”産業創出講座を次世代物質生命科学研究センターに設置
 - ・水産科学院各種表彰授賞式を挙行
 - ・水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙行
 - ・薬学研究院が第7回薬学研究院研究発表会（FD研修会）を開催

- ・国際広報メディア・観光学院が北京と上海で留学説明会及び同窓会を開催
- ・国際広報メディア・観光学院が台北で留学説明会及び同窓会を開催
- ・第14回北海道大学・北京科技大学ジョイントシンポジウムを開催
- ・喜田 宏名誉教授に「人獣共通感染症リサーチセンター特別招へい教授」の称号を授与
- ・教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教職高度化研究部門がフォーラム「今後の教職制度改革と大学院における教職の高度化」を開催
- ・公共政策学研究センターが「第4回北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開催
- ・社会科学実験研究センターで「2015 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences」授与式を挙
- ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第12期修了生に修了証書授与
- ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙
- ・北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催
- ・物質科学リーディングプログラムが原山優子氏・有本建男氏を招いてパネルディスカッションと特別講演会を開催
- 5月号
 - ・経済学研究科がスウェーデン・イェテボリ大学とダブル・ディグリー・プログラム覚書を締結
 - ・経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
 - ・第6回日本学術振興会育志賞－優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援－を環境科学院学生が受賞
 - ・薬学部で新入生歓迎会を開催
 - ・薬学部で平成28年度薬学実務実習開始セレモニーを挙
 - ・理学研究院AL推進室・ALP企画シンポジウム「自然科学のためのアクティブラーニング」を開催
 - ・環境健康科学研究教育センターが第3回「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
 - ・教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターで専門研修会「発達臨床セミナー」を開催
 - ・北海道大学病院DMATを熊本県へ派遣
- 6月号
 - ・水産科学館水産生物標本館の竣工式を挙
 - ・北極域研究センターで北極域研究共同推進拠点開設記念講演会・記念シンポジウムを開催
 - ・函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・工学研究院でトヨタ自動車株式会社代表取締役副社長による特別講演会を開催
 - ・教育学院・教育学研究院・教育学部FD研修「障害者差別解消法に係る本学の取り組みについて」を実施
 - ・獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催
 - ・獣医学研究科寄附講座「獣医学専攻診断病理学講座」感謝状贈呈式の開催
 - ・国際広報メディア・観光学院が中国 安徽大学において「日中メディア文化研究ワークショップ」を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「植物販売会」を開催
 - ・看護週間－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施
 - ・北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流
- 7月号
 - ・歯学研究科・歯学部が山東大学口腔医学院と部局間交流協定を締結
 - ・環境健康科学研究教育センターがソウル大学校公衆衛生大学院環境健康教育研究センターと部局間交流協定を締結
 - ・6研究所・センター合同で一般公開を開催
 - ・環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
 - ・経済学部で成績優秀者表彰式を挙
 - ・会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
 - ・薬学部で薬害をテーマにFD研修会を開催
 - ・工学系部局で救急救命講習会を実施
 - ・北海道大学病院にてインセンティブ経費表彰式を挙
 - ・附属図書館「国際機関情報の探し方セミナー」を開催
 - ・物質科学リーディングプログラムが数理連携の第一人者を招き特別講演会とパネルディスカッションを開催
 - ・第27回全国共同利用情報基盤センター長会議を開催
- 8月号
 - ・総合博物館リニューアルオープン
 - ・水産科学研究院が鹿追町と連携協定を締結
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターでロシア極北をテーマに国際シンポジウムを開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「関西弁を通して学ぶ言葉の魅力」が終了
 - ・文学研究科で科研費申請に関するFD研修を開催
 - ・会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
 - ・経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
 - ・工学系部局で「第1回こころのケアに関する講習会」を開催
 - ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙
 - ・北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
 - ・北海道大学病院で「第54回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
 - ・附属図書館でフィンランドをテーマとした図書展示を開催
 - ・附属図書館「めがせ100万語！英語多読マラソン」スタートアップガイダンスを開催
 - ・太田守名誉教授より大学文書館で沿革資料を受贈
- 9月号
 - ・北極域研究センターがアラスカ大学フェアバンクス校国際北極圏研究センターと部局間交流協定を締結
 - ・Erling Rimestad駐日ノルウェー王国大使が北極域研究センターを訪問
 - ・農学研究科・農学院・農学部が北海道森林管理局と連携協定を締結

- ・農学研究院で「北海道国際農学会議-CABS 2016-」を開催
 - ・韓国法学専門大学院協議会一行が法科大学院を視察
 - ・法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「テクノロジーと法/政治」が終了
 - ・法学研究科でサマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題-特許法をめぐる-」を開催
 - ・公共政策大学院が「地方公務員向け・地方議員向けサマースクール」を開催-地方公営企業の抜本的な経営改革について討議-
 - ・平成28年度水産学部公開講座「弁天町発!! 水産・海洋研究の最前線」が終了
 - ・教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2016(北大プログラム)を開催
 - ・薬学研究院が「第8回薬学研究院研究発表会」を開催
 - ・薬学研究院が「ハラスメントFD研修会」を開催
 - ・薬学部で外国人留学生交流会を開催
 - ・理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~」を開催
 - ・北大農場公開2016「搾乳からアイスクリームまで」
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を開催
 - ・北海道大学病院が院内レストランとコラボレーション企画~病院食メニューを一般向けに提供~
- 10月号**
- ・山口総長、徳久理事・事務局長が練習船おしよろ丸に乗船
 - ・理学院がベトナム科学技術院数学研究所とダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結
 - ・薬学研究院・薬学部で台北医学大学との学生交流(受入れ・派遣)を実施
 - ・薬学研究院・薬学部がThe 2nd HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciencesに参加
 - ・平成28年度地球環境科学研究院公開講座「サステナビリティに資する化学」の終了について
 - ・先端生命科学研究院・生命科学院FD研修「ルーブリック入門」を開催
 - ・農学研究院で平成28年度第1回FD研修会を開催
 - ・農学院において「留学生オリエンテーション」を開催
 - ・農学研究院が台湾・中興大学演習林開設100年記念シンポジウムに参加
 - ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙げる
 - ・動物慰霊式を挙げる
 - ・総合博物館リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」を開催
 - ・附属図書館で北海道大学インターンシップ・図書館実習を実施
 - ・北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受入れ
 - ・附属図書館が第1回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催
 - ・北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施
 - ・工学研究院で「第10回八大学工学部長会議」及び「第132回八大学工学関連研究科長等会議」を開催
 - ・リーディングプログラム新プログラム生20名を採用
- 11月号**
- ・総合化学院と国立台湾大学工学院がダブル・ディグリー・プログラム及びコチュテル・プログラムの覚書を締結
 - ・農学研究院で「第2回国際食資源学フォーラム-国際食資源問題に立ち向かう人材育成-」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「旅は東アジアを変えるのか?」が終了
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~」を開催
 - ◆オタマジャクシはすごい~実験でわかる動物たちの生き残り戦略~
 - ◆体験!ベリー研究の最前線“君も育種家になろう!”
 - ◆海の森の調査隊~おしよろの“こんぶ”の将来は!?
 - ◆のぞいてみよう海の底、北海道の魚たちをまるごとリサーチ
 - ◆動物の動きを測ってみよう~装着型記録計による行動計測~
 - ◆北大農場での生物資源を活用したかしこい作物生産
 - ◆挑戦!イクラをさかんにしてみよう!
 - ・経済学研究科で延世大学校商経大学と共同セミナーを開催
 - ・経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナー「観光と地域開発」を開催
 - ・経済学研究科・経済学部で外国人留学生懇親会を開催
 - ・経済学部で第3回プレゼン大会を開催
 - ・経済学研究科・経済学部で「学部生、研究生のための大学院ガイダンス」を開催
 - ・教育学院・教育学研究院・教育学部でFD研修を開催
 - ・獣医学研究科で動物慰霊式を挙げる
 - ・消防訓練・防災訓練等の実施
 - ・函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・附属図書館で「ウィキペディアキャンパス in 北大」ワークショップを開催
 - ・北海道大学病院で北海道国際医療ネットワークを開催
 - ・Quizon氏、稲葉氏が環境健康科学研究教育センターを訪問
- 12月号**
- ・総合博物館リニューアルオープン後入館者数10万人を達成
 - ・水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターが紋別市との3者間の連携協定を締結
 - ・工学系部局がマッコーリー大学理工学部(オーストラリア)と部局間交流協定を締結
 - ・北極域研究センターがロシア2機関とジョイント・リサーチ・ラボラトリを開設

- ・川端理事・副学長が日露共同研究25周年記念式典に出席
- ・獣医学研究科及び人獣共通感染症リサーチセンターがJICAとボランティア派遣に関する連携協定を締結
- ・平成28年度低温科学研究所公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了
- ・生命科学学院が「第4回生命科学国際シンポジウム」を開催
- ・教育学院・教育学研究院・教育学部で国際交流に係るFDを実施
- ・教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターが第3回教職高度化セミナーを開催
- ・経済学部で札幌国税局長の特別講演会を開催
- ・経済学部で特別講演会「フィンテックと公認会計士によるベンチャー支援」を開催
- ・経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターで講演会「企業の社会的責任と株主-被雇用者パートナーシップ：経験的分析」を開催
- ・「法科大学院に関するアドバイザーグループ会議」を開催
- ・法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催
- ・農学部でオーストラリア政府「新コロポ計画」による学生を受け入れ
- ・農学院・農学研究院・農学部で第7回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- ・文学研究科が北海道札幌東高等学校にて読書会を開催
- ・北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙
- ・薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙
- ・歯学研究科で「動物供養祭」を挙
- ・歯学研究科で自衛消防訓練を実施
- ・情報基盤センターで防災訓練の実施
- ・北海道大学病院で北海道・サハリン州がんシンポジウムを開催
- ・北海道大学病院で指導医ワークショップを開催
- ・附属図書館で第2回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催
- ・総合博物館にバリアフリー玄関並びに木製デッキを設置
- ・総合博物館で坂本直行生誕110年記念企画展示「直行さんのスケッチブック展」を開催
- ・工学部土木工学科卒業生の関係資料を大学文書館で受贈
- ・佐藤昌介博士肖像画を大学文書館で受贈
- ・物質科学リーディングプログラム第4回国際シンポジウムを開催

お知らせ

- 2月号 ・過半数代表候補者の決定
- 3月号 ・共済組合員の皆様へ 被扶養者の認定又は取消等の届出は速やかに
- 4月号 ・平成27年度実施大学機関別認証評価結果について
・平成28年度 人間ドックの実施について
- 5月号 ・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設
- 7月号 ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成27年度）」の概要について
・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について
- 8月号 ・被扶養者の要件の確認
- 10月号 ・次期総長の選考日程の決定について
・医療費通知事業の実施
- 12月号 ・次世代シーケンサーなど先端機器類の共用を開始

寄稿等

- 3月号 ・監事退任にあたって
・定年退職を迎えるにあたって

博士学位記授与

- 1月号 ・課程博士23人，論文博士3人
- 4月号 ・課程博士278人，論文博士18人
- 7月号 ・課程博士38人，論文博士4人
- 10月号 ・課程博士101人，論文博士6人

同窓会との交流

- 2月号 ・恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」
- 4月号 ・函館同窓会「総会及び懇親会」
・文学部同窓会，文学研究科が楡文賞受賞記念講演会を開催

レクリエーション

- 1月号 ・方円会が学生囲碁部との交流会を開催 - 全日本大学囲碁選手権大会の壮行会を兼ねて -
- 4月号 ・平成27年度 北大山岳会山行記録
- 5月号 ・平成27年度 第28回札幌社会人フットサルリーグに出場

- 7月号 ・平成28年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催
- 8月号 ・平成28年度学内バレーボール大会の開催
- 9月号 ・学内教職員ソフトボール大会の開催
- 10月号 ・教職員卓球大会の開催 - 団体戦・ペア・個人戦 -
・平成28年度 第46回 札幌社会人サッカーリーグに出場
・平成28年度学内教職員フットサル大会の開催

研 修

- 1月号 ・平成27年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修
・平成27年度法人文書管理・個人情報保護に関する研修会
- 5月号 ・平成28年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）
- 6月号 ・平成28年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修
- 7月号 ・平成28年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修
- 8月号 ・平成28年度「統計学の初歩」講座
- 9月号 ・平成28年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修
・平成28年度国立大学法人北海道大学会計実務研修
- 11月号 ・平成28年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修初級編）
・平成28年度北海道地区国立大学法人等アドバイラストレータ研修
- 12月号 ・平成28年度北海道地区大学等留学生担当職員研修

表 敬 訪 問

(国内)

- 1月号 ・JR北海道ホテルズ株式会社 代表取締役社長 石見 誠嗣 氏
- 6月号 ・北海道労働局長 田中 敏章 氏
- 10月号 ・イオン北海道株式会社 取締役兼常務執行役員 竹垣 吉彦 氏
・株式会社日本政策投資銀行 代表取締役社長 柳 正憲 氏, 常務執行役員 関根 久修 氏, 北海道支店長 松嶋 一重 氏

(海外)

- 1月号 ・同済大学（中国）Gang Pei 学長
・ブレーメン大学（ドイツ）Yasemin Karakasoglu 副学長
・アバディーン大学（イギリス）Seth Kunin 副学長
・ソウル大学校（韓国）Cheol-Soo Lee 企画処長
- 2月号 ・韓京大学校（韓国）Kang Ki Yong 学生処長
・オーフス大学（デンマーク）Timo Teräsirta 経済学研究科 教授
- 3月号 ・ラチャパット・マハーサーラカム大学（タイ）Somchai Wongkasem 学長
・釜山大学校（韓国）Bog G. Kim 自然科学部物理学科 教授
・サバ大学（マレーシア）Tun Zaki 理事長
- 4月号 ・韓国科学技術院（KAIST）Sung-Mo "Steve" Kang 総長
・Jordan Kalman 氏（札幌農学校初代教頭W. S.クラーク博士御子孫）
・オークランド大学（ニュージーランド）Robert David Greenberg 文学部長・教授
・マレーシアDato' Seri Haji Idris bin Jusoh 高等教育大臣
- 5月号 ・サバ大学（マレーシア）Datuk Mohd Harun Abdullah 学長
・ヤンゴン大学（ミャンマー）Pho Kaung 学長
・インドネシア泥炭地回復庁（インドネシア）Nazir Foead 長官
- 6月号 ・廈門大学（中国）Yan Zhang 理事長
・Ndiyoi Mutiti 駐日ザンビア共和国大使
・ベルゲン大学（ノルウェー）Anne-Christine Johannessen 副学長
- 7月号 ・タマサート大学（タイ）Somkit Lertpaithoon 学長
・ドレスデン応用科学大学（ドイツ）Knut Schmidtke 副学長
・東北大学（中国）Sun Lei 副学長
・スラナリー技術大学（タイ）Prasart Suebka 副学長
・サンカルロス・デ・グアテマラ大学（グアテマラ）Maria Paz Cabrera 西分校長
・バテイン大学（ミャンマー）Nyunt Phay 学長
・マイソール大学（インド）Kanchugarakoppal Subbegowda Rangappa 学長
- 8月号 ・To Huy Rua 越日友好議員連盟会長
・南開大学（中国）Naijia Guan 副学長
・忠北大学（韓国）朴 鍾燮 教授（北海道大学アンバサダー）
・Andrijana Cvetkovik 駐日マケドニア共和国大使
- 9月号 ・忠北大学校（韓国）Yun Yeo-pyo 総長

- ・フィリピン, インドネシア, モンゴル, マレーシア, ミャンマー, ベトナム, タイ訪問団 (フィリピン大学, マレーシアアサバ大学, モンゴル国立大学他)
- ・北東連邦大学 (ロシア) Vladlen Kugunurov 副学長
- 11月号
 - ・スイス連邦工科大学 Heinz Blatter 教授, プレーメン大学 (ドイツ) Wilhelm Hagen 教授
 - ・在札幌米国総領事館 Rachel Brunette-Chen 首席領事
 - ・コロラド州立大学 (アメリカ) Thom Hadley 獣医生物医学 財務・戦略部長
 - ・Betty Grace Akech - Okullo 駐日ウガンダ共和国大使
 - ・駐日オーストラリア大使館 Brett Cooper 公使
 - ・カーティン大学 (オーストラリア) Seth Kunin 副学長
- 12月号
 - ・駐日フランス大使館 ピエール・コリオ 文化参事官

諸会議の開催状況 (平成27年12月～平成28年11月分掲載)

学 内 規 程

- 1月号
 - ・北海道大学情報基盤センター規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学学位規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程等の一部を改正する規程
 - ・北海道大学履修証明プログラムに関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
- 2月号
 - ・北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学借上宿舎等規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
- 3月号
 - ・国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則等の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
- 4月号
 - ・国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則等の一部を改正する規則
 - ・北海道大学大学院先端生命科学研究院附属次世代ポストゲノム研究センター規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学人事委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学技術支援本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学技術支援本部運営委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学情報環境推進本部規程等の一部を改正する等の規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学病原体等安全管理委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学学位規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院特別教育プログラム新渡戸スクール規程の一部を改正する規程

- ・北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学における特別聴講学生及び特別研究学生に係る授業料等の不徴収に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学試作品作製受託規程
- ・北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における公益通報の処理及び公益通報者の保護等に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学役員退職手当規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学教員のサバティカル研修に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学リスク管理規程
- ・国立大学法人北海道大学危機管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報公開規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報教育館管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学産業イノベーション事業による設備利用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学文学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学法学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病院規程等の一部を改正する規程
- ・北海道大学工学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程協議会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸共同利用協議会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院文学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院経済学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院医学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院歯学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院情報科学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学研究院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学環境健康科学研究教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北極域研究共同推進拠点拠点本部規程

- ・北極域研究共同推進拠点運営委員会規程
- ・北極域研究共同推進拠点共同研究推進委員会規程
- ・北海道大学大学文書館利用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程
- 5月号 国立大学法人北海道大学総長の任期に関する規程の一部を改正する規程
- 7月号 北海道大学通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- 8月号 北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程
- 9月号 北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程
- 10月号 国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程
- ・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程
- ・国立大学法人北海道大学国際連携機構日本語・日本文化研修コース規程
- ・国立大学法人北海道大学日本語研修コース規程
- ・北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センターの一部を改正する規程
- ・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター宿泊施設利用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学総長選考規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学客員教員規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学通則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学内部監査規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学学生委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における共同プロジェクト拠点の認定等に関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学名誉学位規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学研究生規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学特別修学支援室規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学私学研修員受入れ規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学中国・人材育成事業研修員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学年俸制教員の業績評価の実施に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人大学職員兼業規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における公益通報の処理及び公益通報者の保護等に関する規程の一部を改正する規程

- ・国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員の懲戒の手續きに関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学教員のサバティカル研修に関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学名誉教授称号授与規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学招へい教員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学全学運用教員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学リスク管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報公開規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学借上宿舍等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
- 11月号 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- 12月号 北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学借上宿舍等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ基本規程
- ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程の全部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報セキュリティポリシー例外措置規程
- ・国立大学法人北海道大学情報環境推進本部規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

訃	報
---	---

- | | |
|------|-----------------|
| 1月号 | ・名誉教授 木下 晋一 氏 |
| | ・名誉教授 角皆 静男 氏 |
| | ・名誉教授 吉田 仁志 氏 |
| | ・名誉教授 丸川 健三郎 氏 |
| 4月号 | ・名誉教授 秀島 光夫 氏 |
| 6月号 | ・名誉教授 笹谷 宜志 氏 |
| | ・名誉教授 高桑 榮松 氏 |
| | ・名誉教授 戸塚 靖則 氏 |
| 7月号 | ・名誉教授 長岡 金吾 氏 |
| | ・名誉教授 亀井 秀雄 氏 |
| 9月号 | ・名誉教授 稲垣 冬彦 氏 |
| | ・名誉教授 渡辺 寛人 氏 |
| | ・名誉教授 東 克彦 氏 |
| | ・准教授 長谷川拓哉 氏 |
| | ・名誉教授 田中 明 氏 |
| 10月号 | ・名誉教授 佐久間 敏雄 氏 |
| 11月号 | ・名誉教授 西村 雅吉 氏 |
| | ・名誉教授 芳村 仁 氏 |
| | ・特任准教授 徳井 美智代 氏 |

資料

- 4月号
 - ・平成28年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
 - ・平成28年度入学者の都道府県分布及び地域比率
- 5月号
 - ・役職員数（平成28年5月1日現在）
- 6月号
 - ・在籍学生数（平成28年5月1日現在）
 - ・平成28年度外国人留学生数（平成28年5月1日現在）
 - ・平成28年度国別外国人留学生数（平成28年5月1日現在）
 - ・平成27年度卒業・修了者の就職等状況一覧
- 11月号
 - ・役職員数（平成28年10月1日現在）
 - ・在籍学生数（平成28年10月1日現在）
 - ・広報誌等一覧（平成28年10月調査）
- 12月号
 - ・平成28年度外国人留学生数（平成28年11月1日現在）
 - ・平成28年度国別外国人留学生数（平成28年11月1日現在）
 - ・北大時報掲載記事事項別一覧（平成28年掲載分）

編集メモ

●12月に入り、キャンパスはすっかり雪景色となりました。雪が降る日や真冬も増えて、本格的な冬の訪れを感じさせます。

●いつもリテラポプリーや北大時報をご覧いただきましてありがとうございます。この1年も学内の皆様のご協力により、北大時報を発行することができました。厚くお礼申し上げます。



2014.12.12 函館本線 然別～銀山 (仁木町)

北の鉄道風景 45 雪夜に駆ける

積雪した線路を除雪するためにはラッセル車や排雪モーターカーが用いられる。前者は鉄道車両であり、旅客列車や貨物列車の運行中であっても、除雪のための走行が可能である。一方で、後者は法規上、除雪作業用の機械であって、鉄道車両ではない。したがって、他の列車と同時に運用することはできない。現在の道内路線では、新幹線も含めて、排雪モーターカーが主に使用されている。しかし、

豪雪地帯を通過する宗谷本線や函館本線の長万部～小樽間では、ラッセル車を用いることで、旅客列車と排雪列車の同時運行を実現している。写真は雪夜に駆けるラッセル車、小樽発長万部行きの定期排雪列車である。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑫ No.753 平成28年12月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html